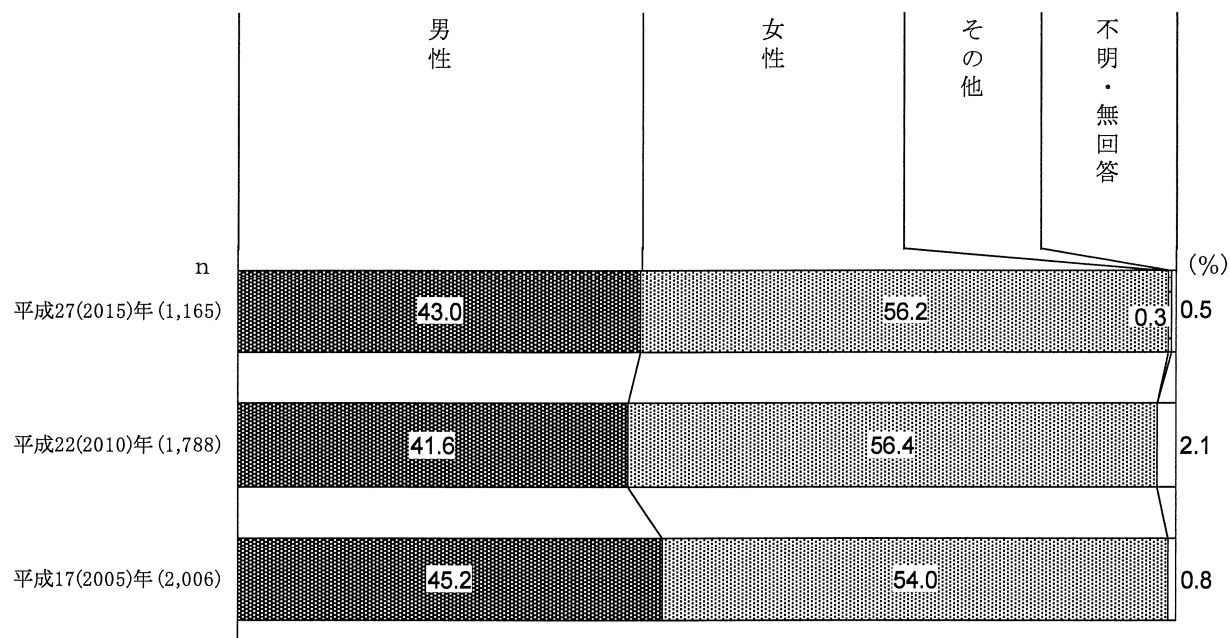


II 調查結果

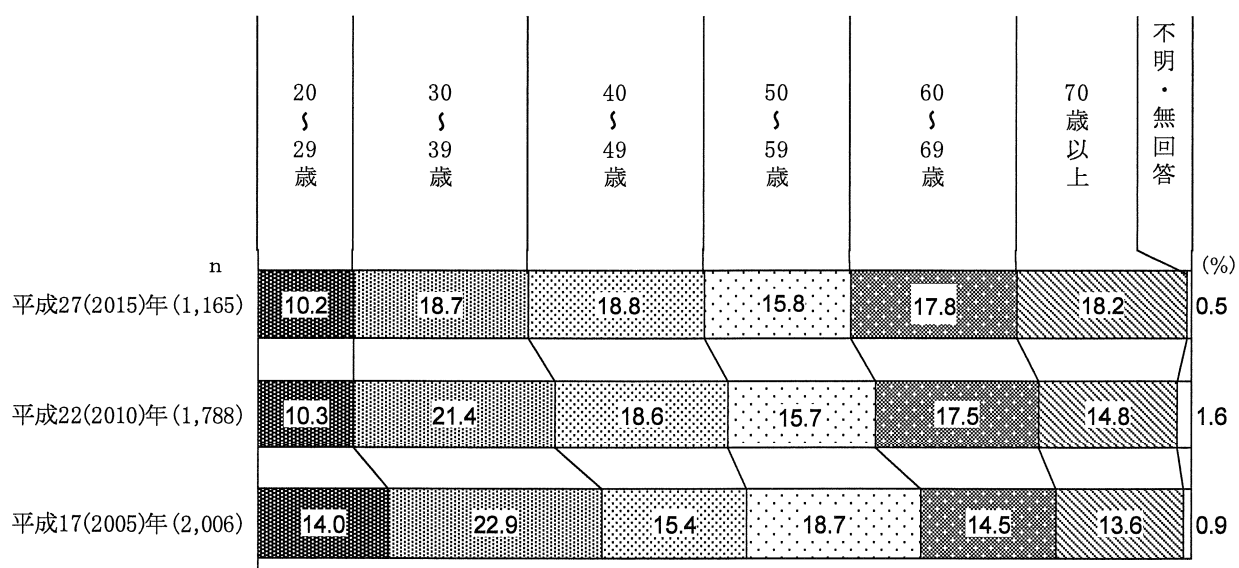
回答者の属性

F 1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



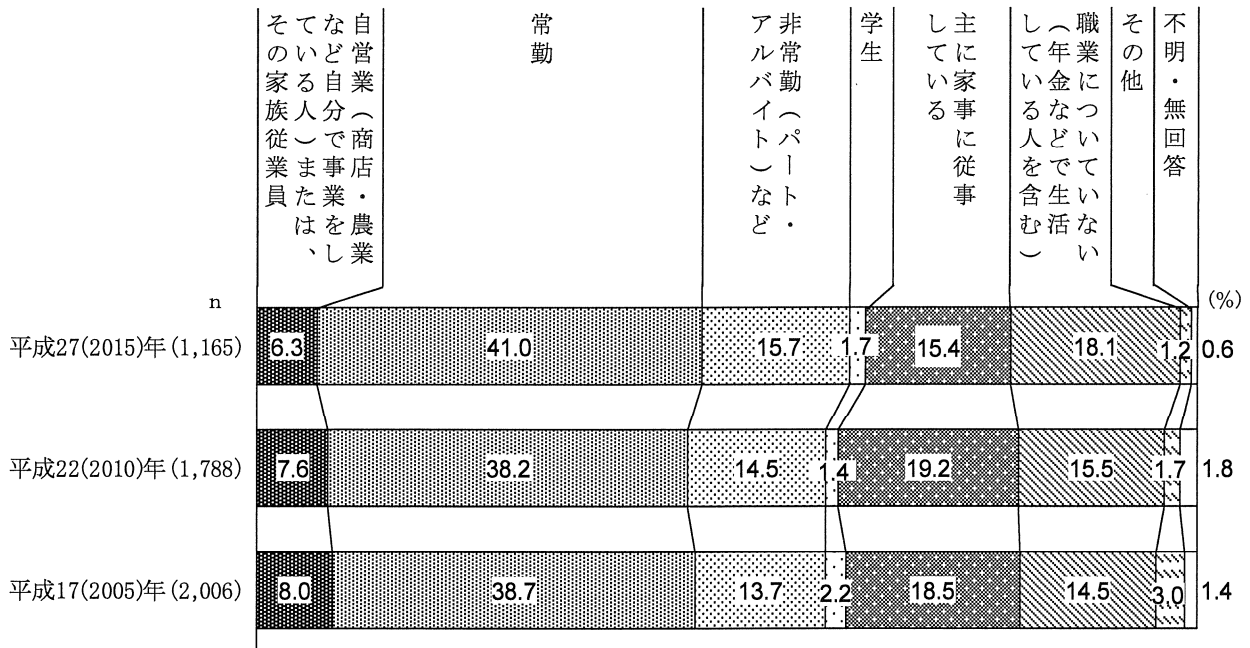
※平成17(2005)年と平成22(2010)年では、属性「その他」については未聴取

F 2 あなたの年齢は、いくつですか。(平成27(2015)年11月1日現在の満年齢)
(〇は1つ)

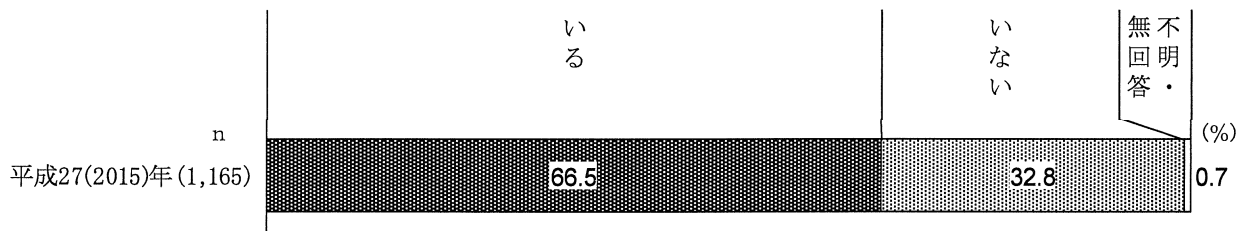


F 3 あなたの現在のご職業を教えてください。

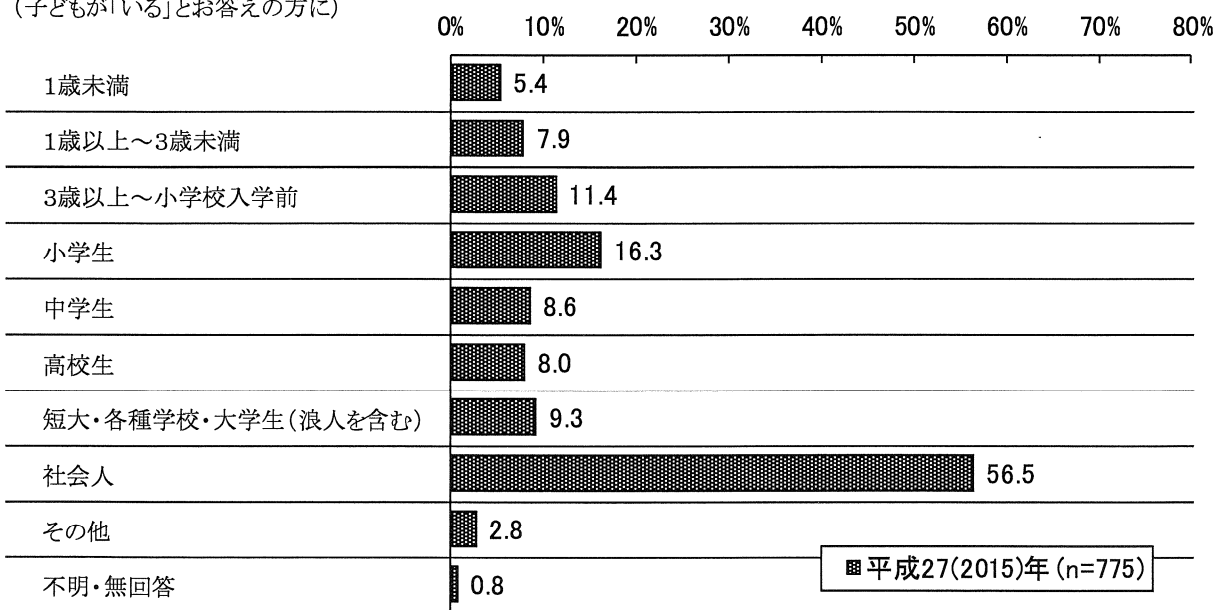
(いくつかあてはまる場合は、主なものに○を1つ)



F 4 あなたにはお子さんがいますか。いる場合は、同居・別居にかかわらずお子さんの成長段階についてあてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)



(子どもが「いる」とお答えの方に)

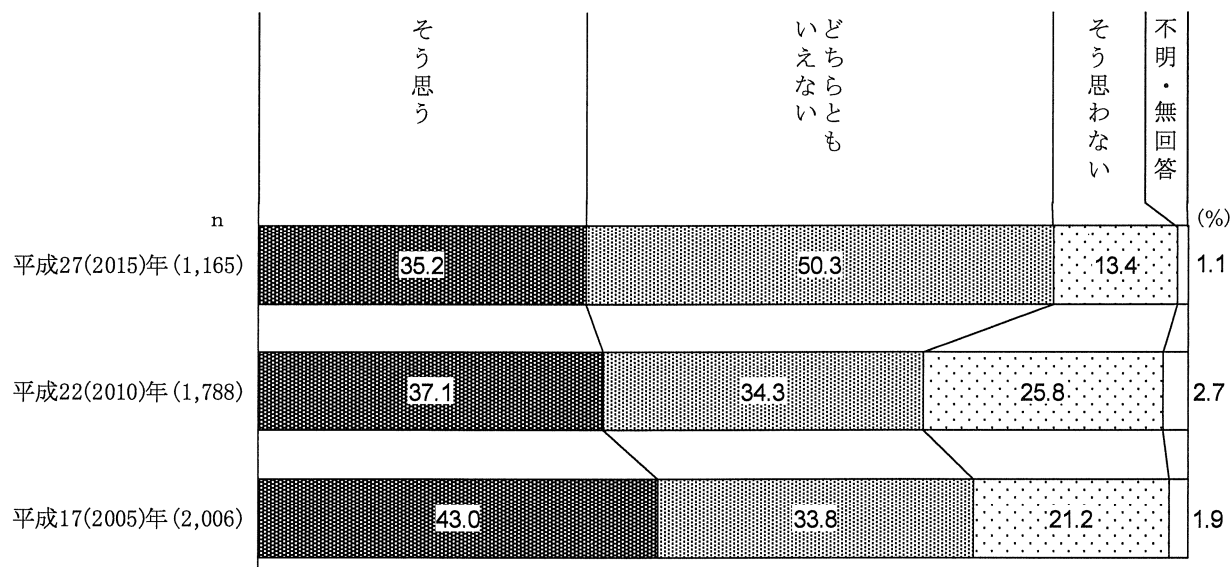


※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

1. 川崎市の人権意識・社会について

(1) 人権意識の高まりについて

問1 あなたは、自分自身を含め市民一人ひとりの人権についての意識が、10年前(2005年)に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)



全体 人権意識が高くなっているかについては、「どちらともいえない」が 50.3%で最も多く、次いで「そう思う」(35.2%)、「そう思わない」(13.4%)の順となっている。

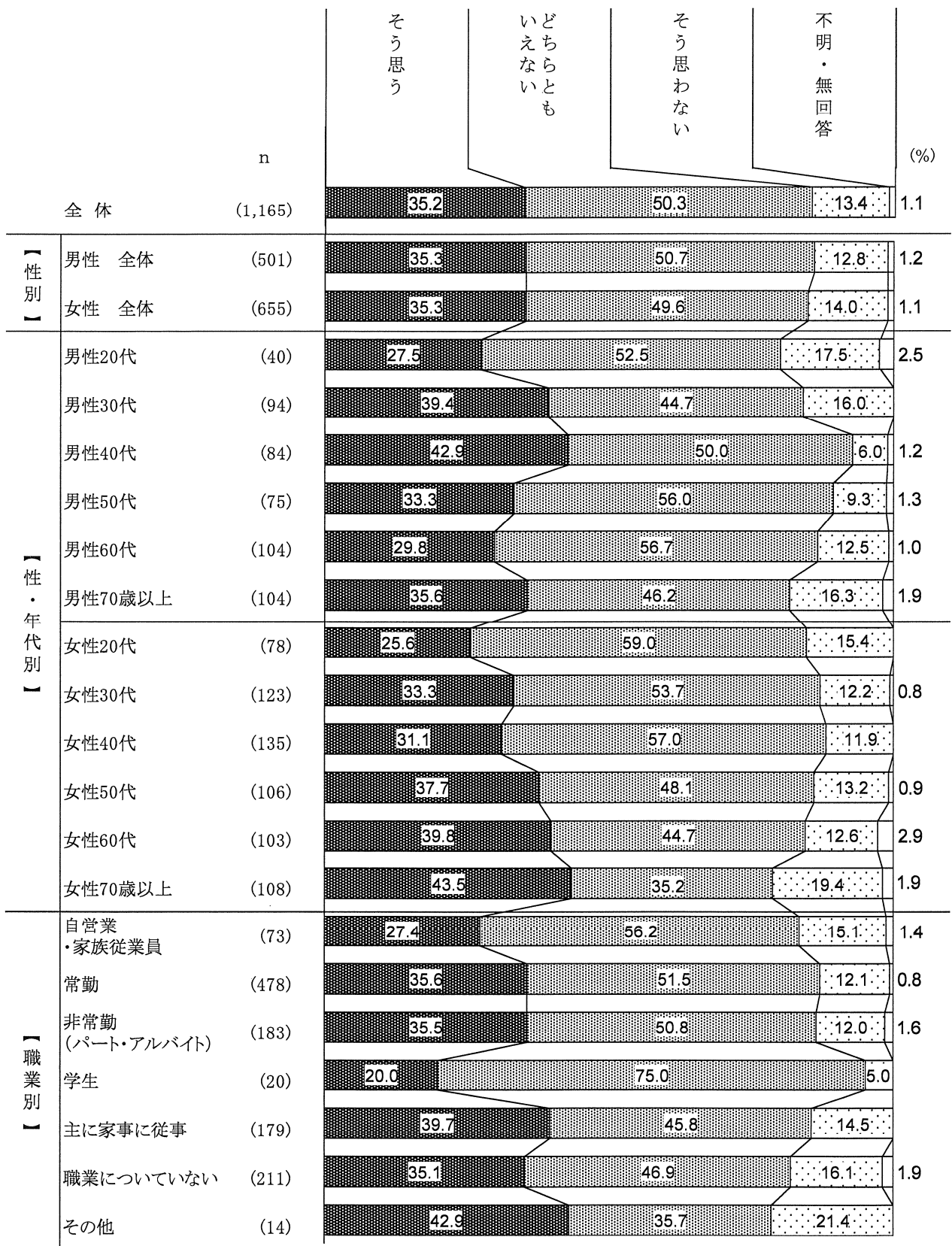
過去の調査と比較すると、「そう思う」が微減、「そう思わない」は平成 22 (2010) 年の 25.8%から 13.4%に半減している。一方、「どちらともいえない」が前回の 34.3%から 50.3%と、16 ポイント増加している。

性別 男女で大きな違いは見られない。

性・年代別 男性の 30 代・40 代で「そう思う」が 39.4%と 42.9%と多くなっている。女性は、年代が上がるにつれて「そう思う」が多くなる傾向があり、60 代と 70 歳以上では「そう思う」の割合が、それぞれ 39.8%、43.5%と多くなっている。一方、男女とも「そう思わない」は 20 代・30 代と 70 歳以上で多くなっている。

職業別 学生は、「そう思う」が 20.0%と目立って少なく、「そう思わない」も 5.0%と少ない。職業についていない人は、「そう思わない」が 16.1%と、やや多い傾向が見られる。常勤と非常勤(パート・アルバイト)とでは、ほとんど違いが見られない。

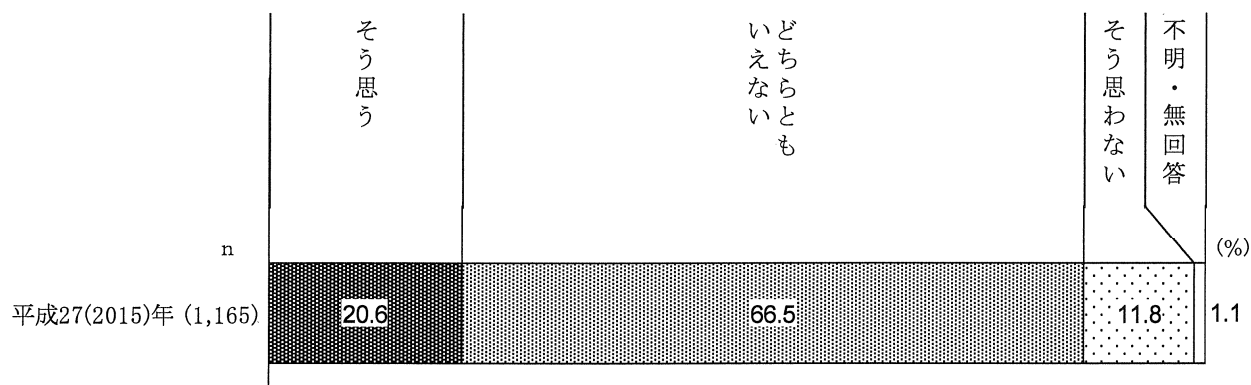
図 1-1 人権意識の高まりについて（性別、性・年代別、職業別）



※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(2) 川崎市の人権尊重について

問2 あなたは、川崎市では、一人ひとりの人権が尊重されていると感じますか。(○は1つ)



※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

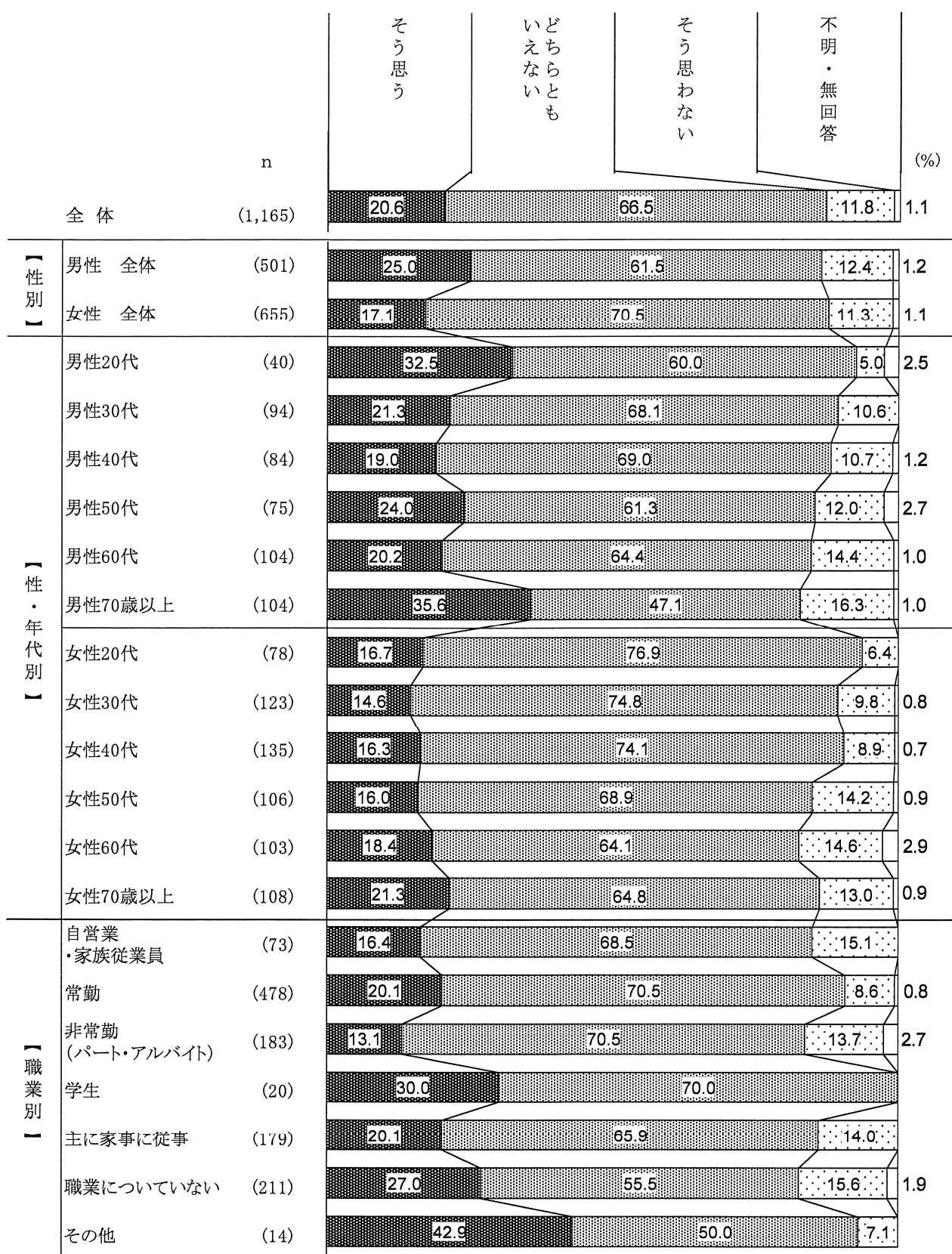
全体 一人ひとりの人権が尊重されているかについては、「どちらともいえない」が66.5%で最も多く、次いで「そう思う」(20.6%)、「そう思わない」(11.8%)の順となっている。

性別 「そう思う」の割合は、女性(17.1%)より男性(25.0%)のほうが多くなっている。

性・年代別 男性20代と男性70歳以上は、同世代の女性に比べて「そう思う」が32.5%と35.6%となっており、目立って多い。男女ともに、年代が上がるにつれ「そう思わない」がやや多くなる傾向が見られる。

職業別 学生と職業についていない人は、「そう思う」が30.0%と27.0%となっており、多い。一方、「そう思わない」が多いのは、職業についていない人(15.6%)、自営業・家族従業員(15.1%)、主に家事に従事している人(14.0%)、非常勤(パート・アルバイト)(13.7%)となっている。

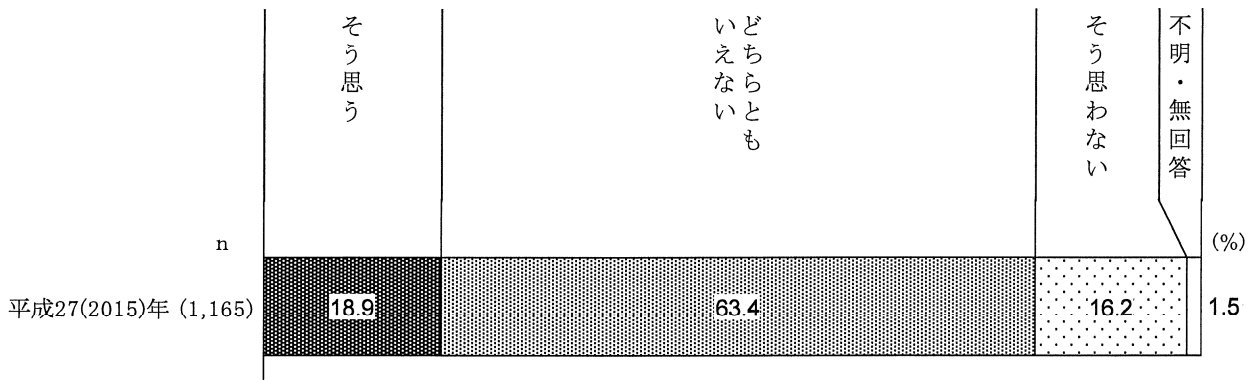
図 1-2 川崎市の人権尊重について（性別、性・年代別、職業別）



※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(3) 川崎市における共に生きる社会について

問3 あなたは、川崎市が、人々が互いのさまざまな違いを認め合い、共に生きる社会になっていると思いますか。(〇は1つ)



※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

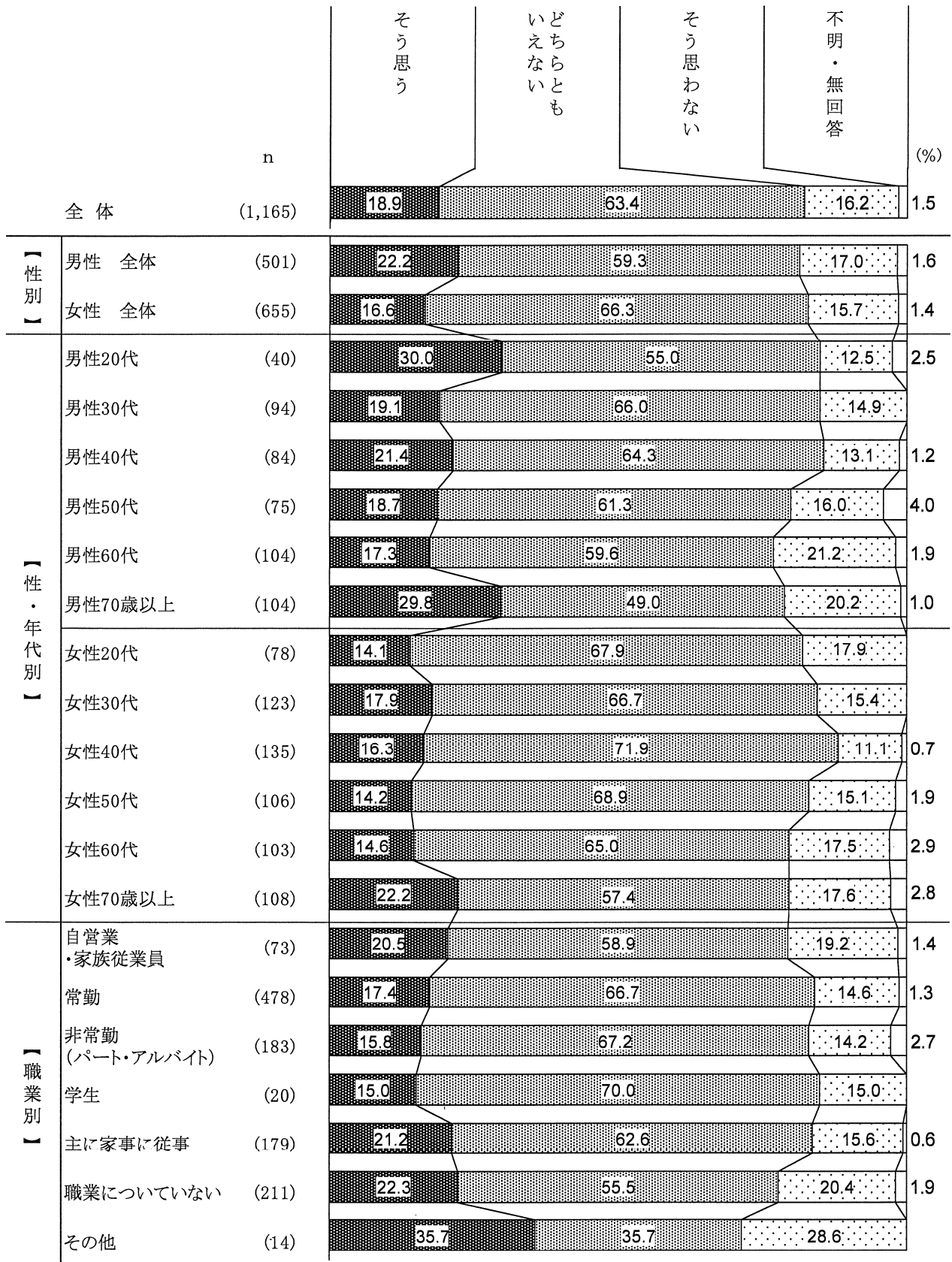
全体 問2の「一人ひとりの人権が尊重されているかについて」の回答割合と比べてみると、「そう思う」が少なく、一方、「そう思わない」は多くなっており、否定的な傾向が見られる。人権をめぐる状況と人権意識は異なる、との認識の表れであるといえよう。

性別 女性（16.6％）に比べ、男性（22.2％）のほうが「そう思う」の割合が多い。

性・年代別 「そう思う」は、男性20代と男性70歳以上（30.0％と29.8％）は、同世代の女性（14.1％と22.2％）に比べ、目立って多い。

職業別 職業についていない人（22.3％）、主に家事に従事している人（21.2％）、自営業・家族従業員（20.5％）で、「そう思う」の割合が多く、一方、学生では「そう思う」が15.0％と少なくなっており、問2の回答と大きな違いが見られる。

図 1-3 川崎市における共に生きる社会について（性別、性・年代別、職業別）

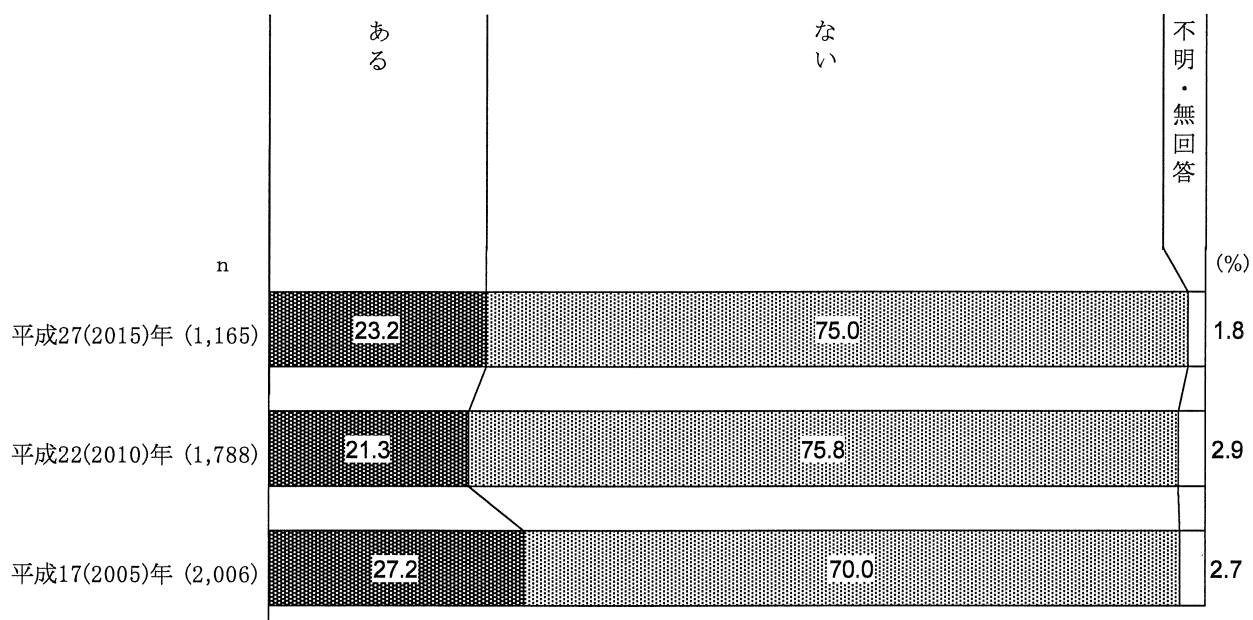


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

2. 人権侵害を受けた経験について

(1) 自分自身や家族の人権が侵害された経験

問4 あなたは、今までに、あなた自身やご家族の人権が侵害されたと思っただことがありますか。
(○は1つ)



全体 自分自身や家族の人権が侵害された経験の有無について、「ある」が23.2%、「ない」が75.0%となっており、約2割強の人が人権侵害された経験がある。

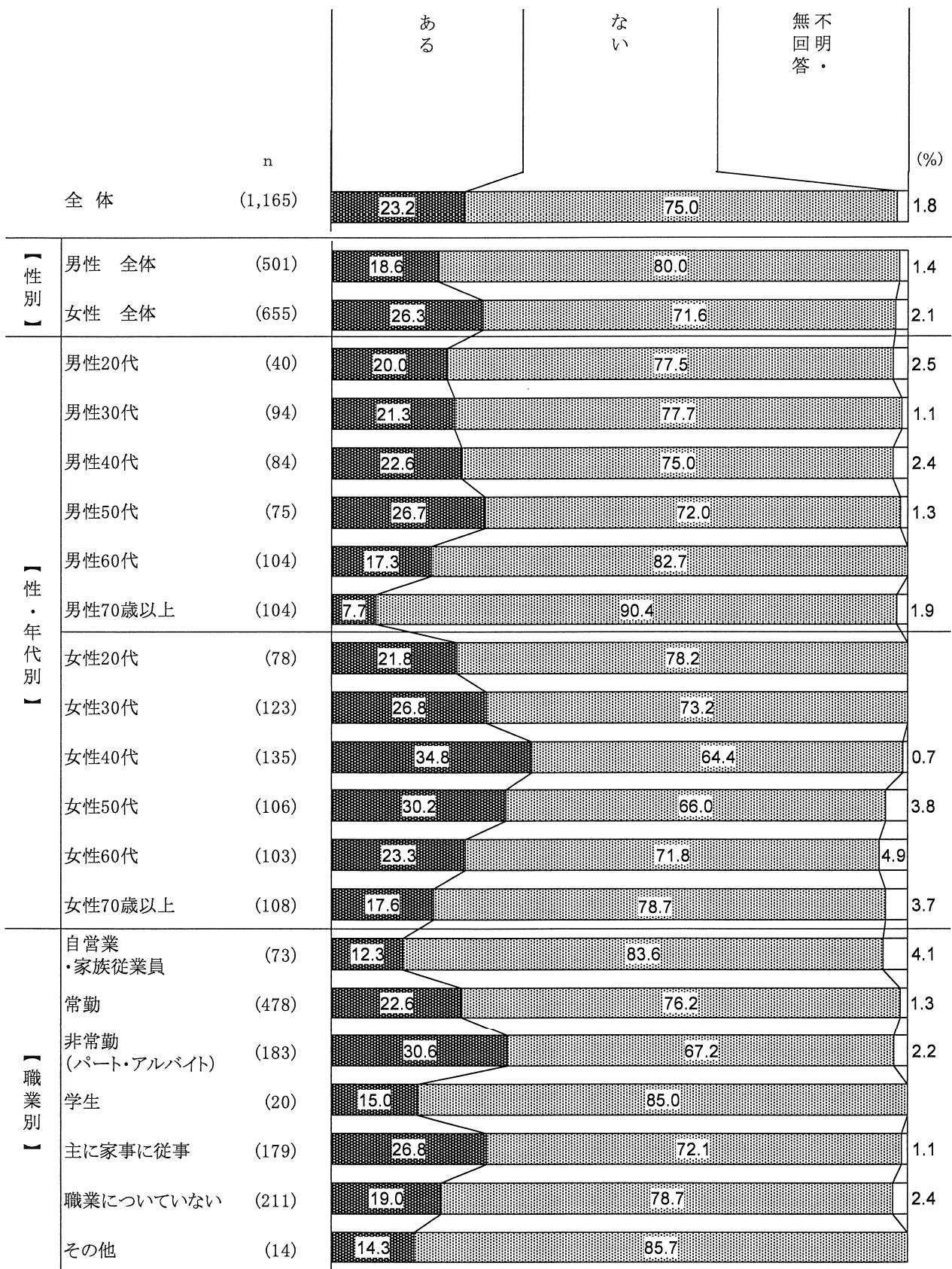
平成22(2010)年の調査と比較すると、「ある」が21.3%から23.2%に微増している。

性別 「ある」の割合は、男性(18.6%)より女性(26.3%)のほうが多くなっている。

性・年代別 「ある」の割合は、男性50代で26.7%、女性40代・50代で34.8%と30.2%となり、他の性・年代と比較して多くなっている。

職業別 「ある」の割合は、非常勤(パート・アルバイト)で30.6%、主に家事に従事している人で26.8%と、多くなっている。

図 2-1 自分自身や家族の人権が侵害された経験（性別、性・年代別、職業別）



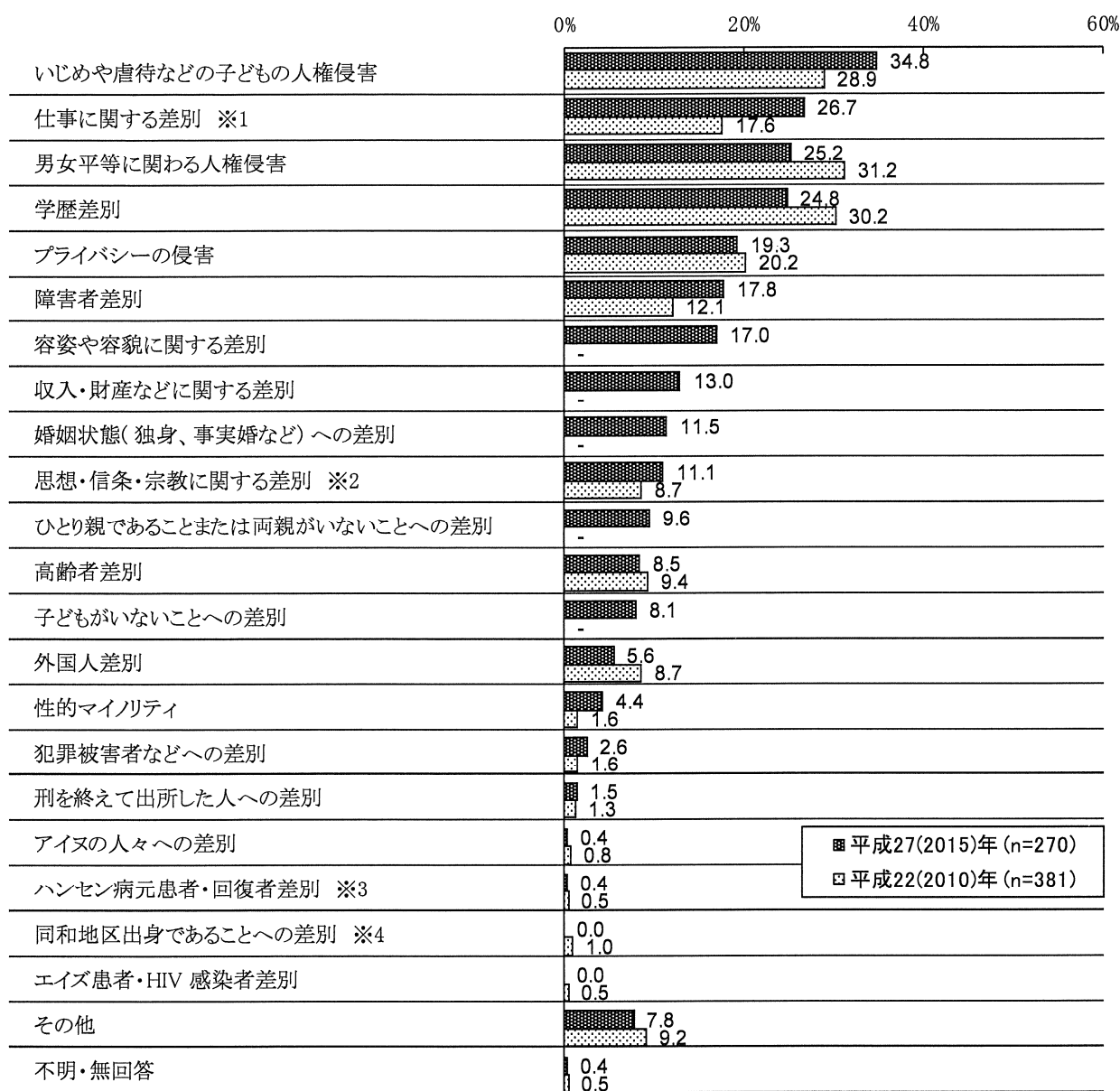
※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(2) 自分自身や家族が受けた人権侵害の種類

(問4で「1. ある」とお答えの方に)

問5 あなた自身やご家族が受けたと思う人権侵害は、次のうちどのようなものですか。

(〇はいくつでも)



基数は、問4で「自分自身や家族の人権が侵害されたことがある」を選択した回答者

「-」:平成22(2010)年では未聴取

※1:平成22(2010)年では、「職業差別」として聴取

※2:平成22(2010)年では、「思想・信条の差別」として聴取

※3:平成22(2010)年では、「ハンセン病患者・元患者差別」として聴取

※4:平成22(2010)年では、「同和問題」として聴取

全体 自分自身や家族の人権が侵害された経験があると回答した人に、侵害された人権の種類を聴取したところ、「いじめや虐待などの子どもの人権侵害」が 34.8%で最も多く、次いで「仕事に関する差別」(26.7%)、「男女平等に関わる人権侵害」(25.2%)、「学歴差別」(24.8%)と続いている。

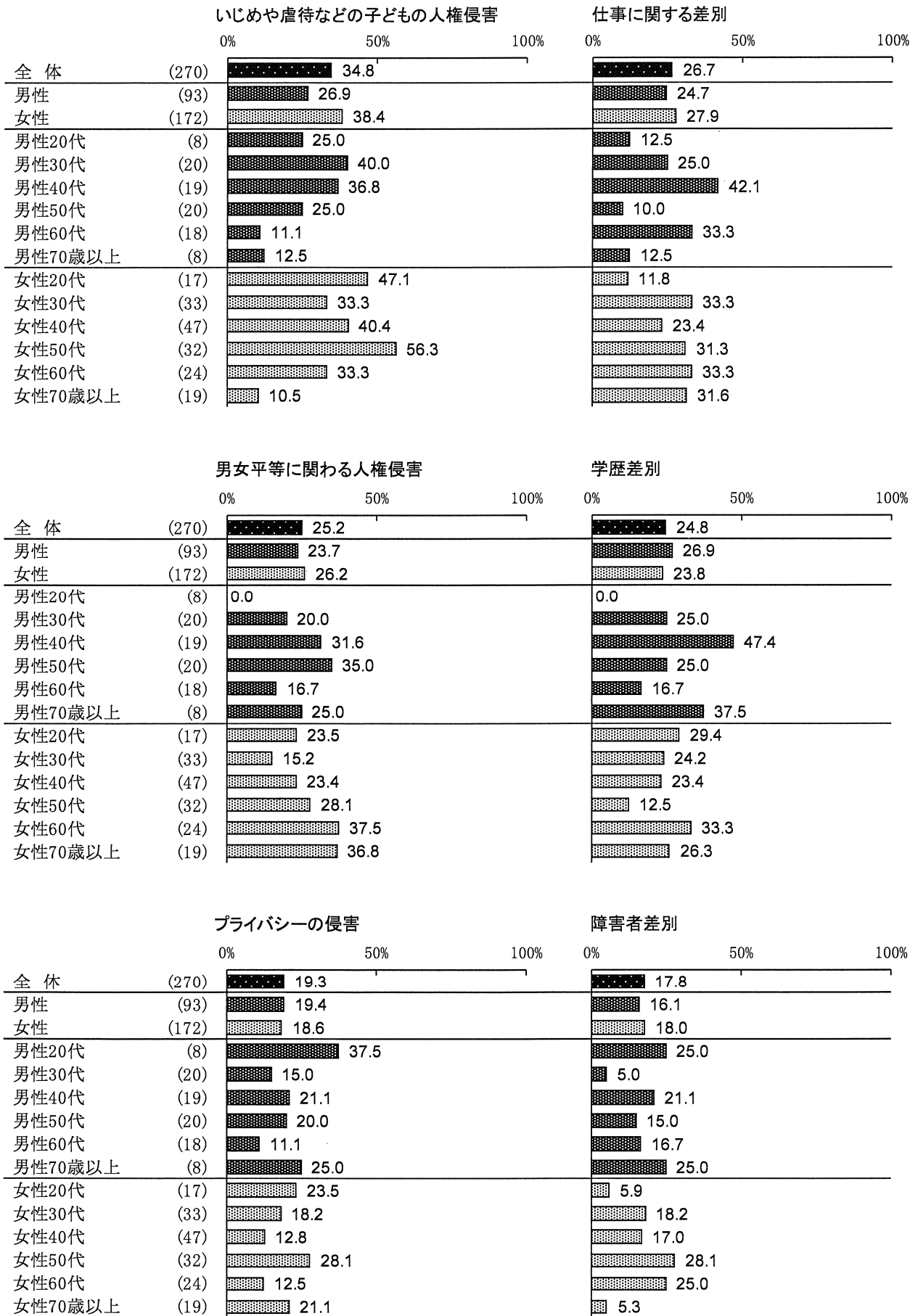
平成 22 (2010) 年の調査と比較すると、「いじめや虐待などの子どもの人権侵害」が 28.9%から 34.8%へ、「仕事に関する差別」が 17.6%から 26.7%へ、「障害者差別」が 12.1%から 17.8%へと増加している。また、割合は低いですが、「性的マイノリティ」は 1.6%から 4.4%へと、倍以上に増加している。

性別 「いじめや虐待などの子どもの人権侵害」は、男性 (26.9%) に比べ女性 (38.4%) のほうが、11.5 ポイントも多くなっている。

性・年代別 男性 30 代と、女性 40 代・50 代は、「いじめや虐待などの子どもの人権侵害」が 40%を超え、他の性・年代と比べて多くなっている。

男性 50 代と女性 60 代は、「男女平等にかかわる人権侵害」が、35.0%と 37.5%となっており、他の性・年代と比べて多い。

図 2-2 自分自身や家族が受けた人権侵害の種類【上位6位】（性別、性・年代別）

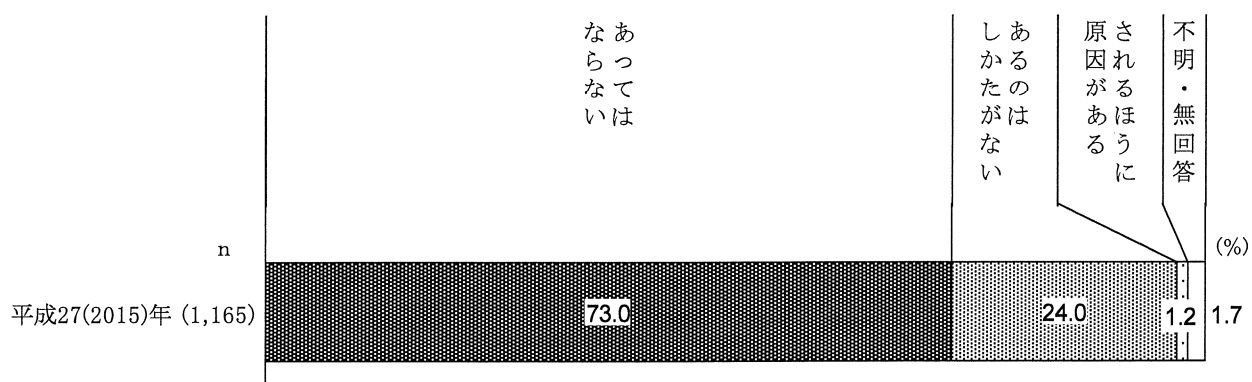


3. 差別について

(1) 差別に対する考え方

問6 「差別」について、あなたのお考えに近いものはどれですか。

問6-1 差別について（○は1つ）



※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

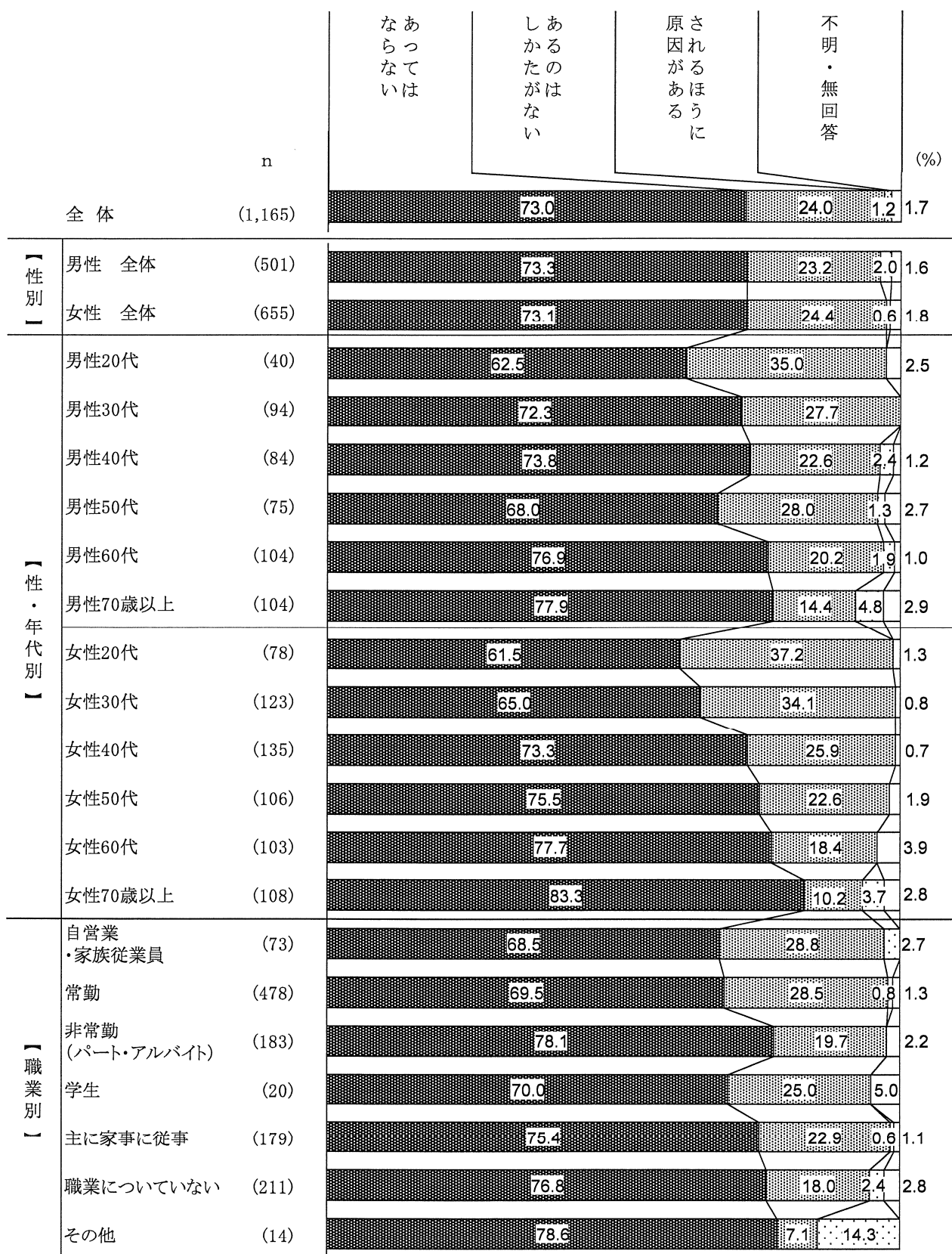
全体 差別に対する考え方を聴取したところ、「あつてはならない」の割合が73.0%で最も多く、次いで「あるのはしかたがない」(24.0%)、「されるほうに原因がある」(1.2%)の順となっている。

性別 男女で大きな違いは見られないが、「されるほうに原因がある」は、女性(0.6%)より男性(2.0%)のほうが、わずかに多くなっている。

性・年代別 男女ともに、年代が上がるにつれて「あつてはならない」の割合が多くなる傾向が見られる。

職業別 非常勤(パート・アルバイト)、職業についていない人、主に家事に従事している人では、「あつてはならない」がそれぞれ78.1%、76.8%、75.4%となり、他の職業と比べて多い。自営業・家族従業員、常勤、学生では、「あるのはしかたがない」がそれぞれ28.8%、28.5%、25.0%と、他の職業と比べて多くなっている。

図 3-1 差別に対する考え方（性別、性・年代別、職業別）

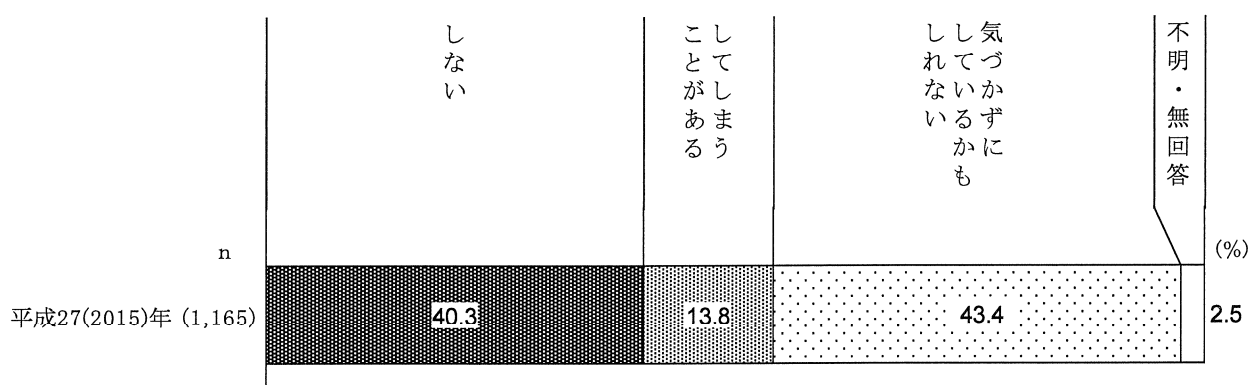


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(2) 差別することに対する考え方

問6 「差別」について、あなたのお考えに近いものはどれですか。

問6-2 あなたは差別を(○は1つ)



※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

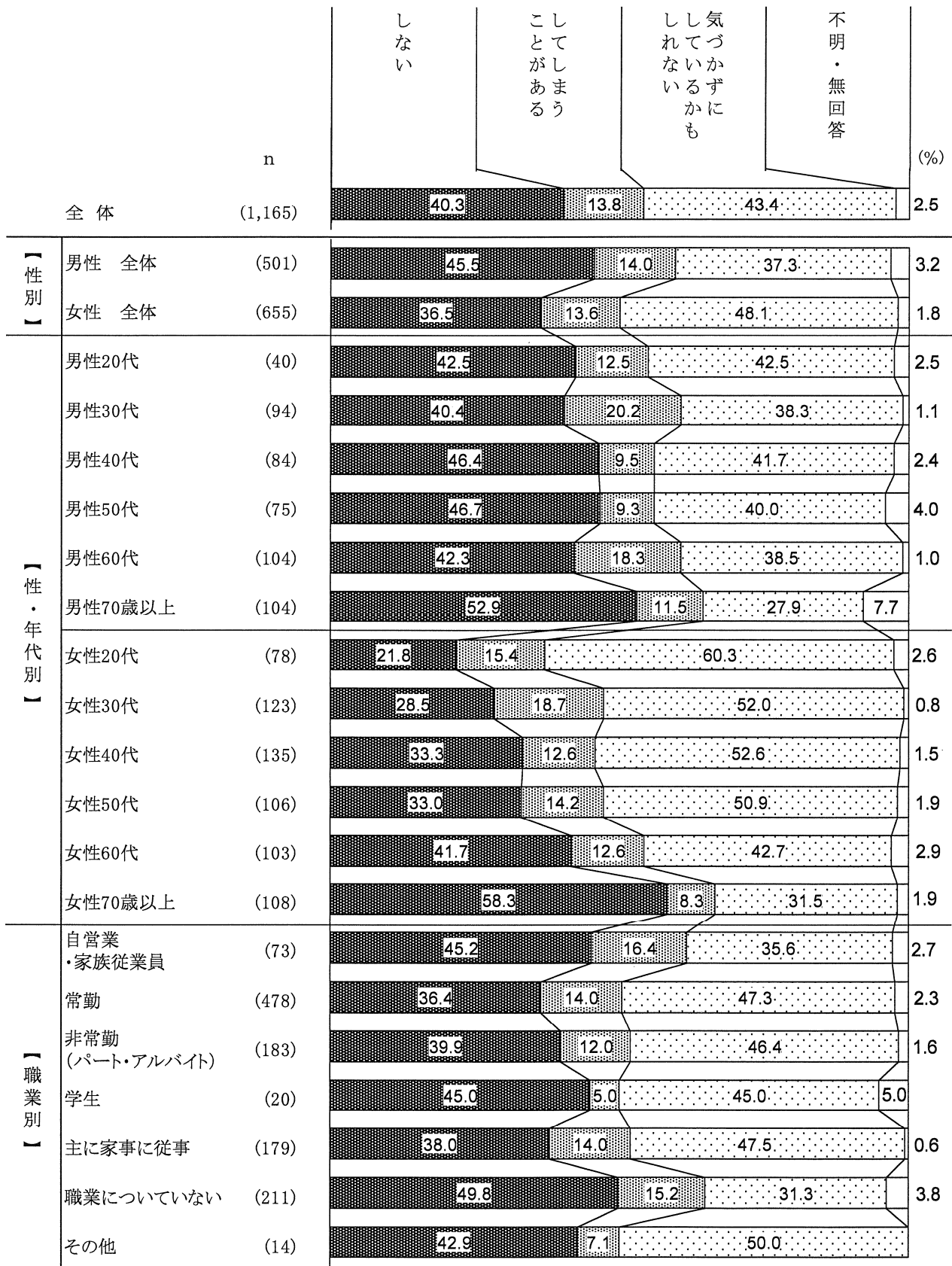
全体 差別することに対する考え方を聴取したところ、「気づかずにしているかもしれない」の割合が43.4%で最も多く、次いで「しない」(40.3%)、「してしまうことがある」(13.8%)の順となっている。

性別 「しない」の割合は、女性(36.5%)に比べ、男性(45.5%)のほうが多くなっている。一方、「気づかずにしているかもしれない」は、男性の37.3%に対し、女性は48.1%と、女性のほうが10.8ポイント多くなっている。

性・年代別 男女とも年代が上がるほど「しない」の割合が多くなる傾向が見られ、70歳以上では「しない」の割合が、男性で52.9%、女性で58.3%と半数を超えており、特に多くなっている。

職業別 職業についていない人、自営業・家族従業者、学生は、「しない」がそれぞれ49.8%、45.2%、45.0%と40%を超え、他の職業と比べて多くなっている。

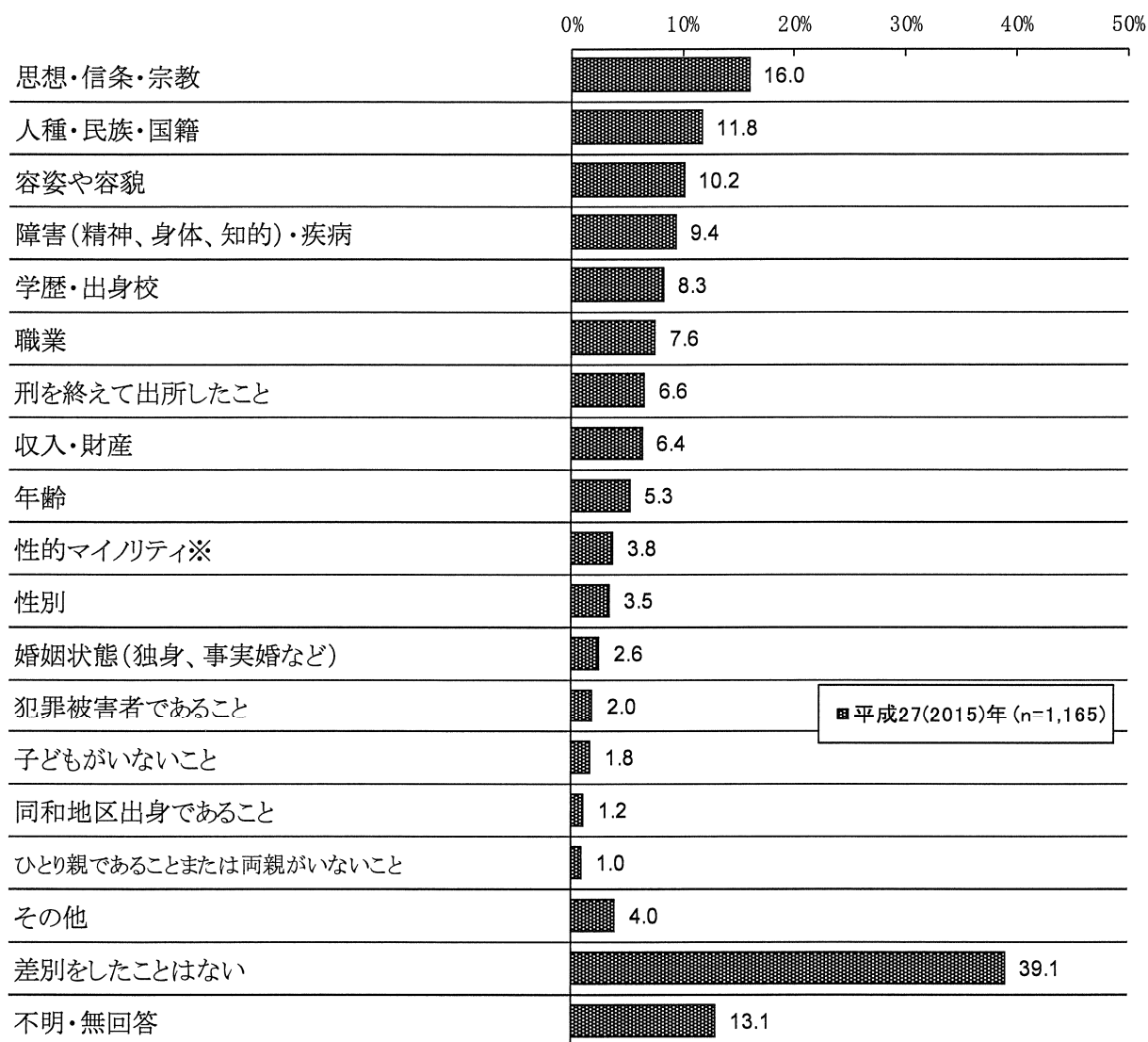
図 3-2 差別することに対する考え方（性別、性・年代別、職業別）



※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(3) したことがある差別の種類

問7 あなたはこれまでに、他人を「差別」したことがありますか。ある場合、何について差別したことがありますか。(〇はいくつでも)



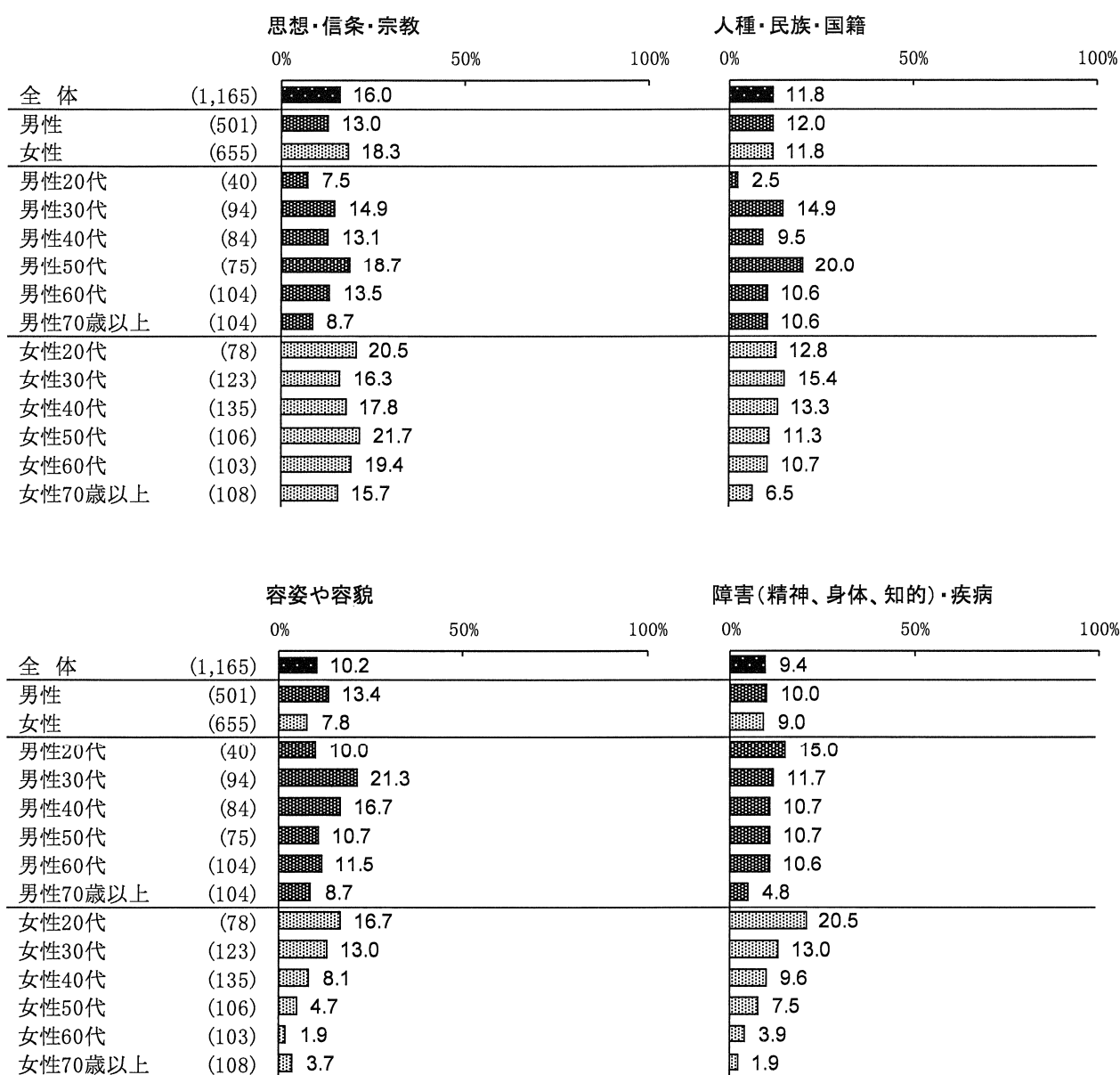
※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 他人を差別したことがある人に、何について差別したかを聴取したところ、「思想・信条・宗教」が16.0%で最も多く、次いで「人種・民族・国籍」(11.8%)、「容姿や容貌」(10.2%)が続いている。

性別 「容姿や容貌」は、女性は7.8%と少なく、男性は13.4%と多くなっている。一方、「思想・信条・宗教」は、男性は13.0%と少なく、女性は18.3%と多くなっている。

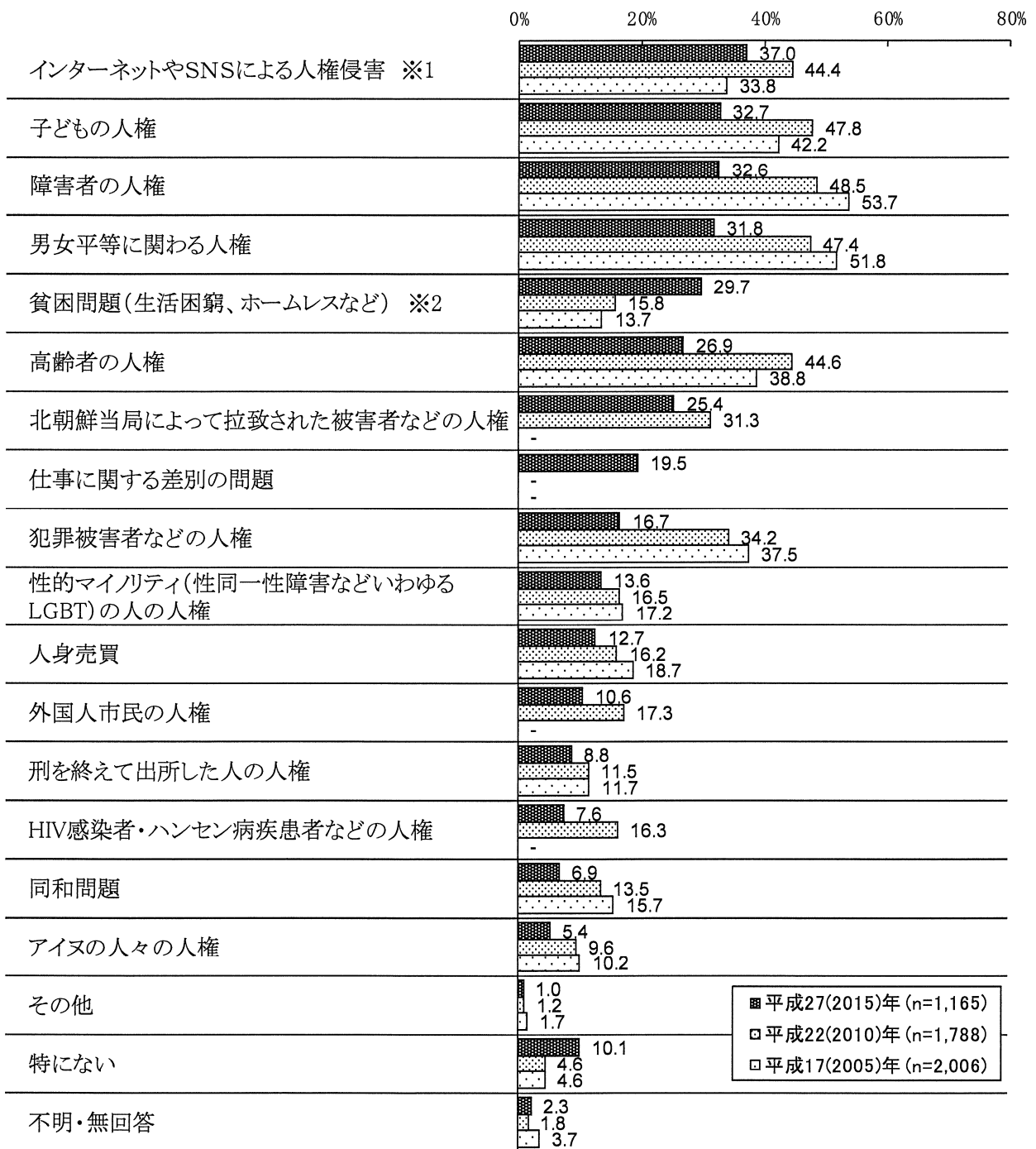
性・年代別 「人種・民族・国籍」は、男性20代で2.5%と非常に少なく、女性20代の12.8%と比べても10ポイント以上少ない。「容姿や容貌」と「障害(精神、身体、知的)・疾病」は、男性は年代による違いが少ないが、女性は年代が下がるほど多い。

図 3-3 したことがある差別の種類【上位 4 位】(性別、性・年代別)



4. 関心のある人権課題について

問8 さまざまな人権課題について、あなたが関心のあるものはどれですか。(〇はいくつでも)



[-]: 平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

※1: 平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「インターネットによる人権侵害」として聴取

※2: 平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「ホームレス状態にある人の人権」として聴取

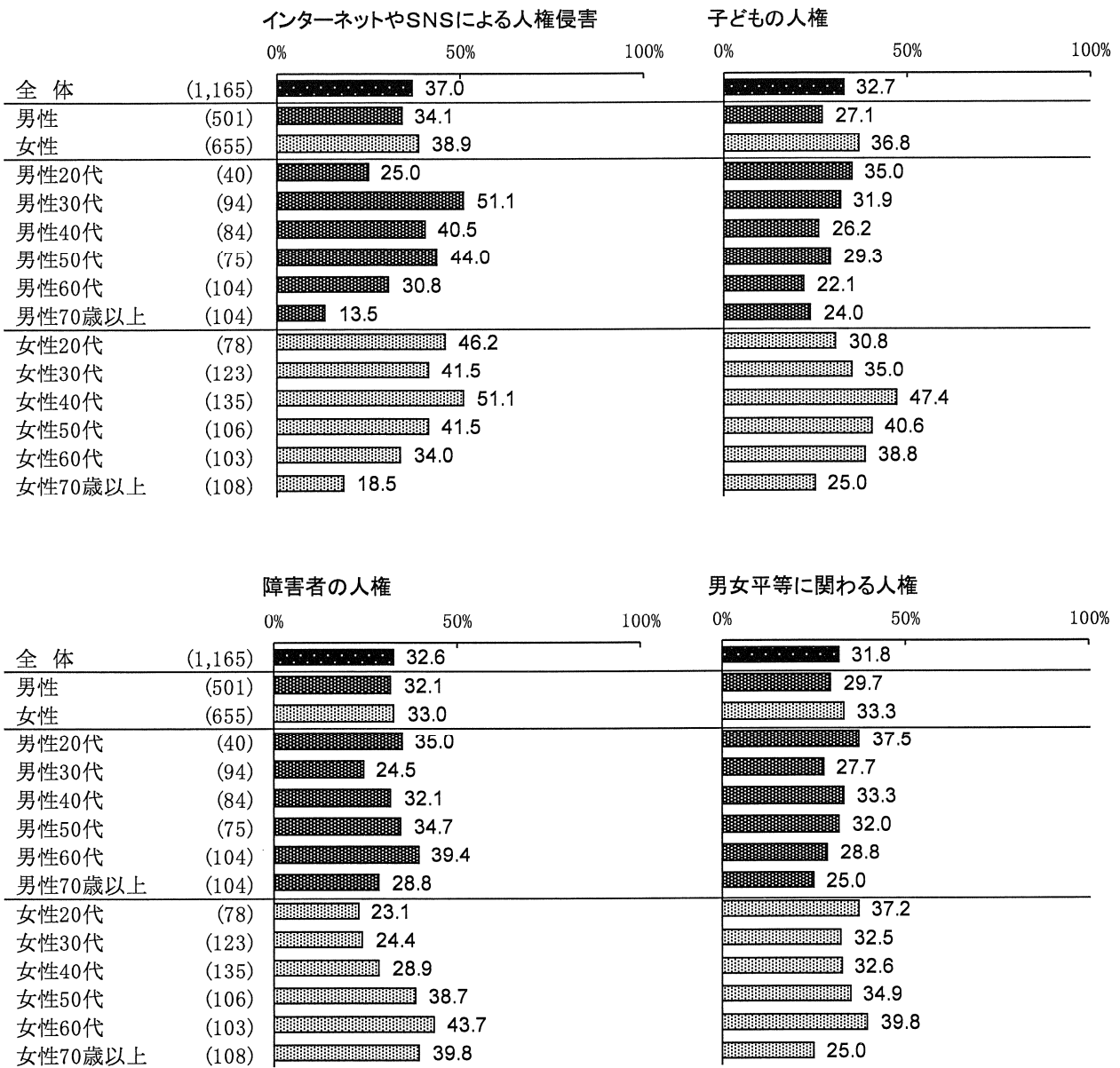
全体 関心のある人権課題については、「インターネットや SNS による人権侵害」が 37.0%で最も多く、次いで「子どもの人権」(32.7%)、「障害者の人権」(32.6%)と続いている。

過去の調査と比較すると、前回平成 22 (2010) 年に 5 位だった「インターネットや SNS による人権侵害」が 37.0%で今回 1 位となっており、前回 1 位の「障害者の人権」は 32.6%で 3 位に、「子どもの人権」は 32.7%で前回同様 2 位となっている。また、「貧困問題 (生活困窮、ホームレスなど)」は 15.8%から 29.7%へ、倍近く増え 5 位になっている。

性別 「子どもの人権」は、男性 (27.1%) より女性 (36.8%) のほうが 10 ポイント近く多くなっている。

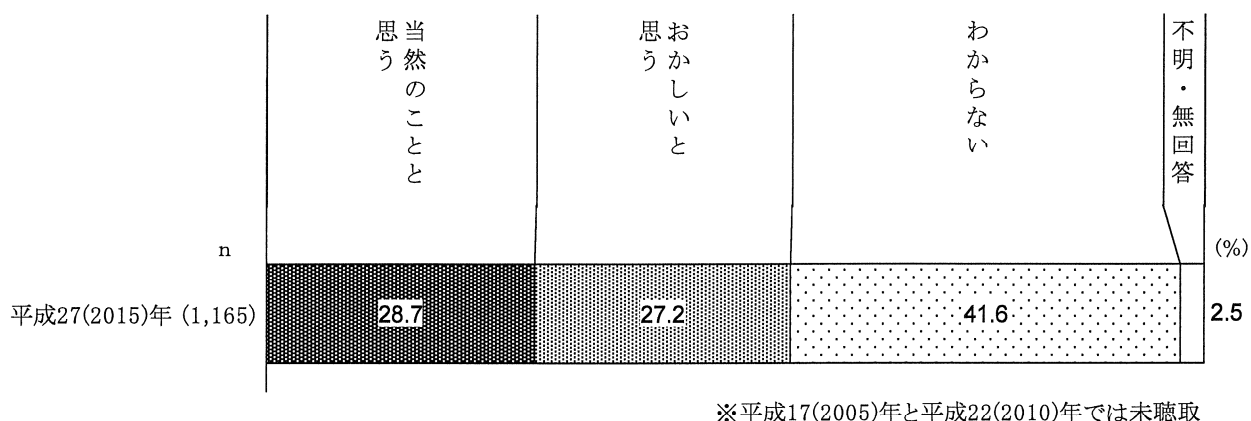
性・年代別 「インターネットや SNS による人権侵害」は、男性 30 代と女性 40 代でともに 51.1%と、他の性・年代と比べて多くなっている。「子どもの人権」は、女性 40 代で 47.4%と、他の性・年代と比べ目立って多くなっている。

図 4-1 関心のある人権課題【上位4位】(性別、性・年代別)



5. 結婚相手の身元調査に対する考え方

問9 結婚相手を決めるときに相手の身元調査をすることについて、あなたのお考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)



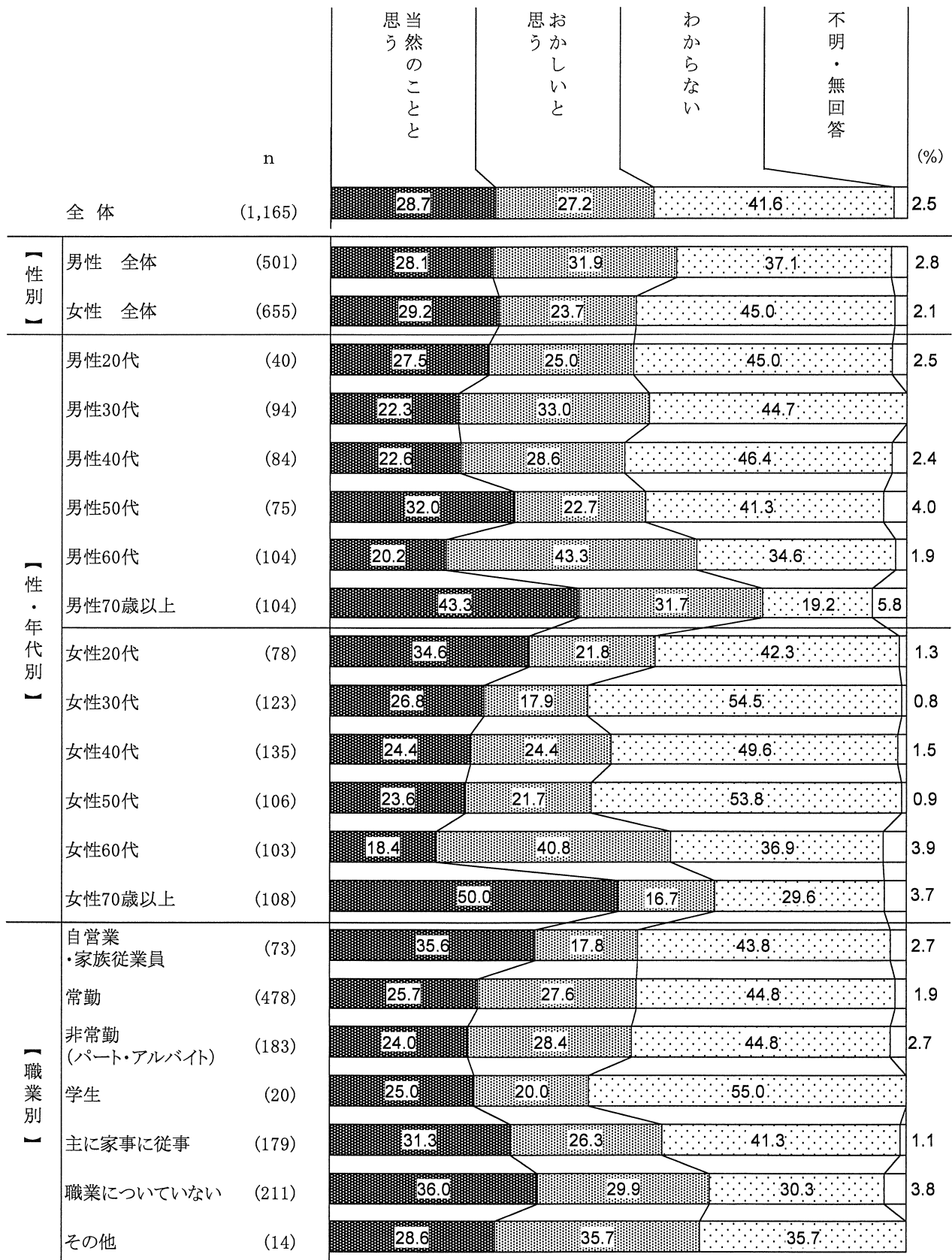
全体 結婚相手を決めるときに相手の身元調査をすることについては、「当然のことと思う」が28.7%、「おかしいと思う」が27.2%となっており拮抗している。また、「わからない」は41.6%と最も多くなっている。

性別 「おかしいと思う」の割合は、女性(23.7%)に比べ、男性(31.9%)のほうが多くなっている。

性・年代別 男女とも60代と70歳以上では「当然のことと思う」が倍以上の差がある。男性は60代で20.2%に対して、70歳以上では43.3%、同様に女性は60代で18.4%に対して、70歳以上では50.0%となっている。また、女性は70歳以上を除き、年代が下がるほど「当然のことと思う」の割合が多くなっている。

職業別 「当然のことと思う」は、職業についていない人では36.0%、自営業・家族従業員では35.6%と、他の職業と比べて多くなっている。

図 5-1 結婚相手の身元調査に対する考え方（性別、性・年代別、職業別）

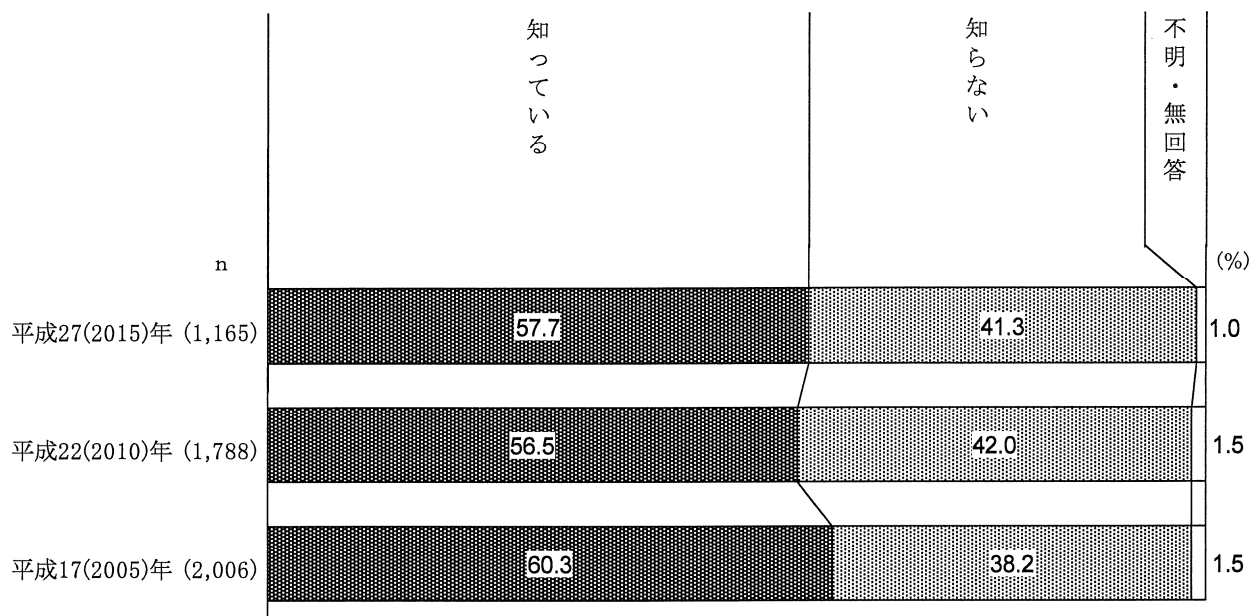


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

6. 同和地区・同和問題について

(1) 同和地区・同和問題の認知度

問 10 あなたは、同和地区や同和問題などのことを知っていますか。(○は1つ)



全体 同和地区や同和問題などについての認知度は、「知っている」が57.7%、「知らない」は41.3%となっている。

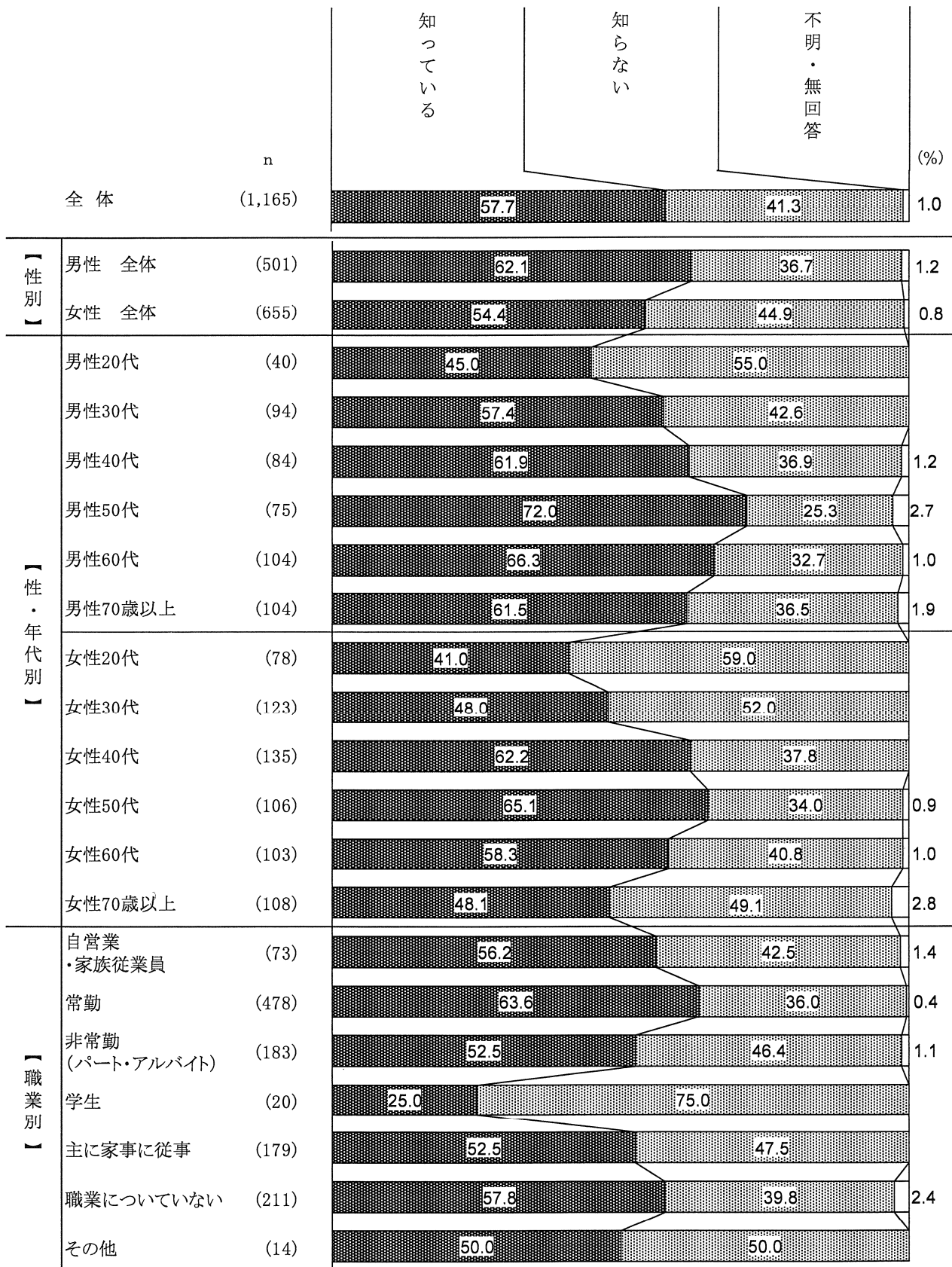
過去の調査と比較すると、「知っている」は前回平成22(2010)年の56.5%から57.7%と微増している。

性別 「知っている」の割合は、女性(54.4%)より男性(62.1%)のほうが7.7ポイント多くなっている。

性・年代別 男女とも50代は、「知っている」がそれぞれ72.0%と65.1%で、他の性・年代と比べて多くなっている。また、男女とも20代は、「知らない」がそれぞれ55.0%と59.0%で多くなっている。

職業別 常勤は「知っている」が63.6%と、他の職業と比べて多くなっている。一方、学生は「知らない」の割合が75.0%と、目立って多くなっている。

図 6-1 同和地区・同和問題の認知度（性別、性・年代別、職業別）

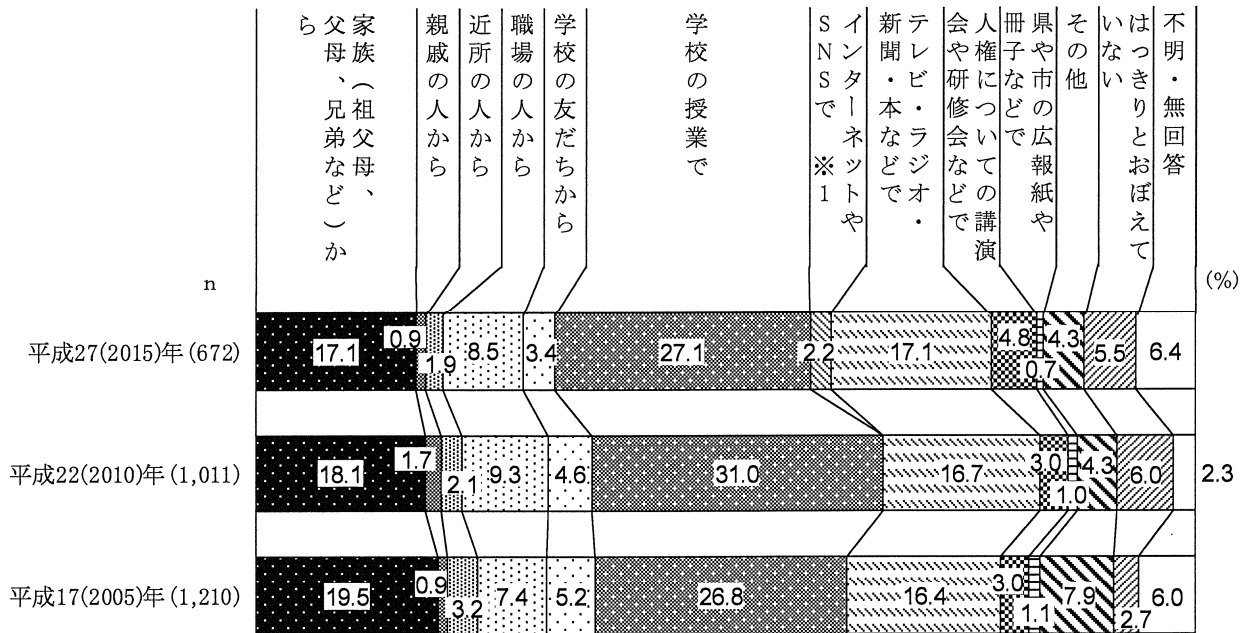


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(2) 同和地区・同和問題についてはじめて知ったきっかけ

(問10で「1. 知っている」とお答えの方に)

問11 あなたが、同和地区や同和問題についてはじめて知ったきっかけは何ですか。(〇は1つ)



基数は、問10で「同和地区や同和問題などのことを知っている」を選択した回答者
 ※1:平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「インターネットやSNSで」については未聴取

全体

同和地区や同和問題についてはじめて知ったきっかけは、「学校の授業で」が27.1%で最も多く、次いで「家族(祖父母、父母、兄弟など)から」と「テレビ・ラジオ・新聞・本などで」がそれぞれ同率で17.1%、「職場の人から」(8.5%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「家族から」は、19.5%から18.1%、17.1%と、年を経ることに漸減している。一方、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで」は、16.4%から16.7%、17.1%と増加傾向が見られる。また、「人権についての講演会や研修会などで」も、3.0%から4.8%へ微増している。なお、「学校の授業で」が、26.8%から31.0%へと多くなる傾向にあったが、今回27.1%と3.9ポイントほど少なくなっている。

性別

男性より女性のほうが「家族から(祖父母、父母、兄弟などから)」(男性16.4%、女性18.0%)、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで」(男性14.8%、女性19.4%)の割合が多くなっている。

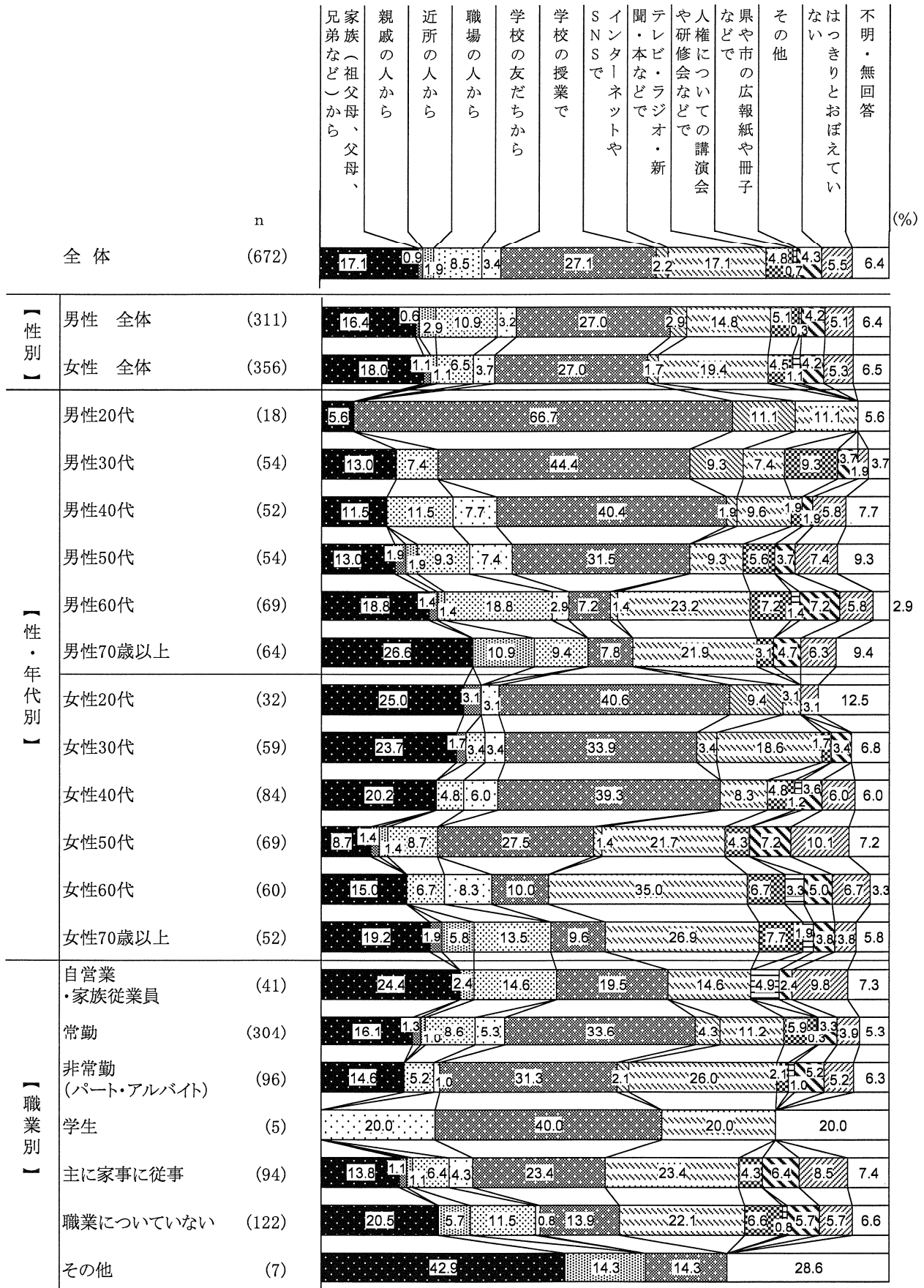
性・年代別

「学校の授業で」は、男性20代が目立って多い。「家族から(祖父母、父母、兄弟など)から」は、男性では、年代が上がるにつれて多くなる一方、女性では、20代で25.0%と最も多くなっている。

職業別

「家族から(祖父母、父母、兄弟などから)」は、自営業・家族従業員で24.4%と、他の職業と比べて多くなっている。

図 6-2 同和地区・同和問題についてはじめて知ったきっかけ（性別、性・年代別、職業別）

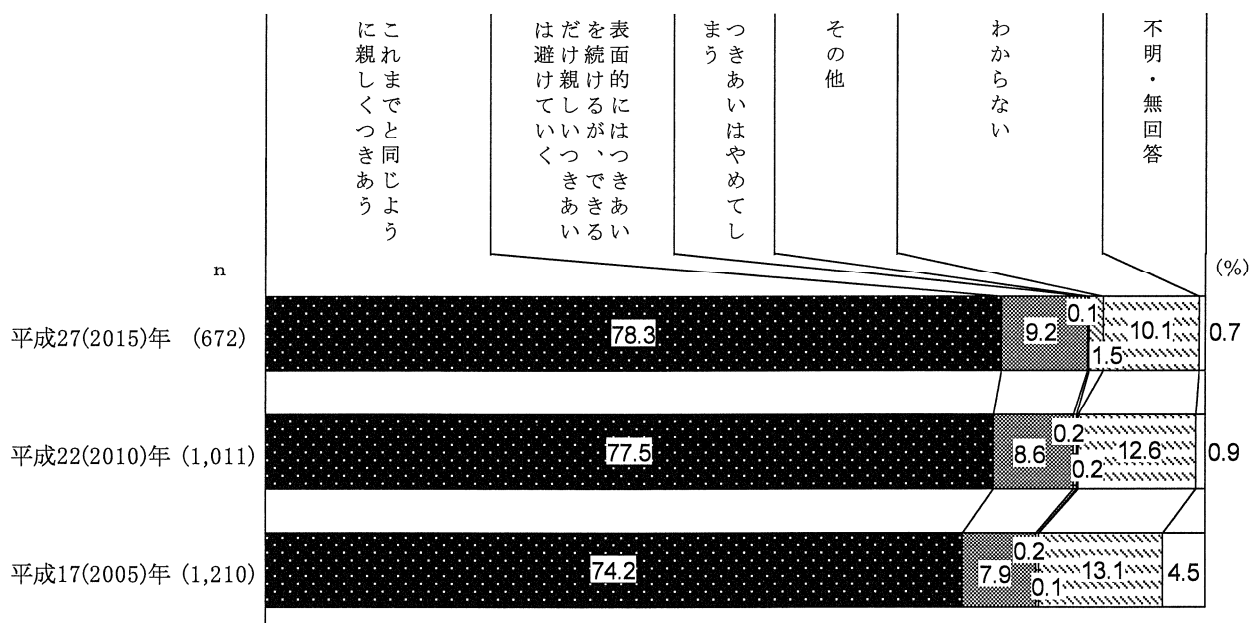


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(3) 隣人が同和関係者であることがわかった場合の対応

(問10で「1. 知っている」とお答えの方に)

問12 仮に、日ごろから親しくつきあっている隣近所の人が、同和関係者であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(〇は1つ)



基数は、問10で「同和地区や同和问题などのことを知っている」を選択した回答者

全体 仮に、日ごろから親しくつきあっている隣近所の人が、同和関係者であることがわかった際の対応については、「これまでと同じように親しくつきあう」が78.3%で最も多く、次いで「わからない」(10.1%)、「表面的にはつきあいを続けるが、できるだけ親しいつきあいは避けていく」(9.2%)と続いている。

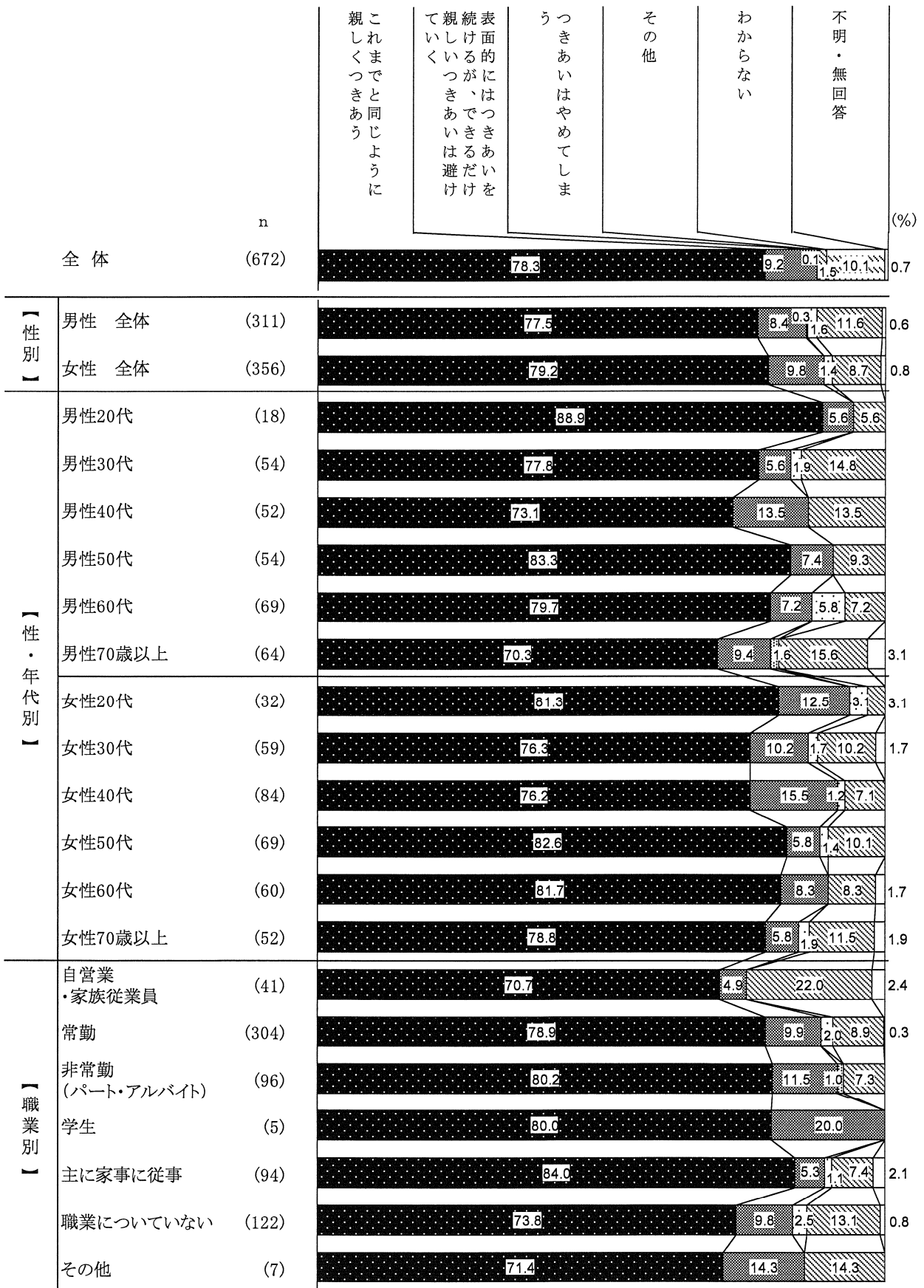
過去の調査と比較すると、「これまでと同じように親しくつきあう」は、74.2%から77.5%、78.3%へと増加し、「表面的にはつきあいを続けるが、できるだけ親しいつきあいは避けていく」も、7.9%から8.6%、9.2%へと微増傾向が見られる。

性別 男女とも50代で「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が、83.3%、82.6%と、他の性・年代と比べて多くなっている。

性・年代別 男性20代は、「これまでと同じように親しくつきあう」が88.9%で、他の年代と同世代の女性に比べ多くなっている。

職業別 主に家事に従事している人は、「これまでと同じように親しくつきあう」が84.0%と多く、自営業・家族従業員は「つきあいはやめてしまう」が22.0%と、他の職業と比べ、目立って多くなっている。

図 6-3 隣人が同和関係者であることがわかった場合の対応（性別、性・年代別、職業別）

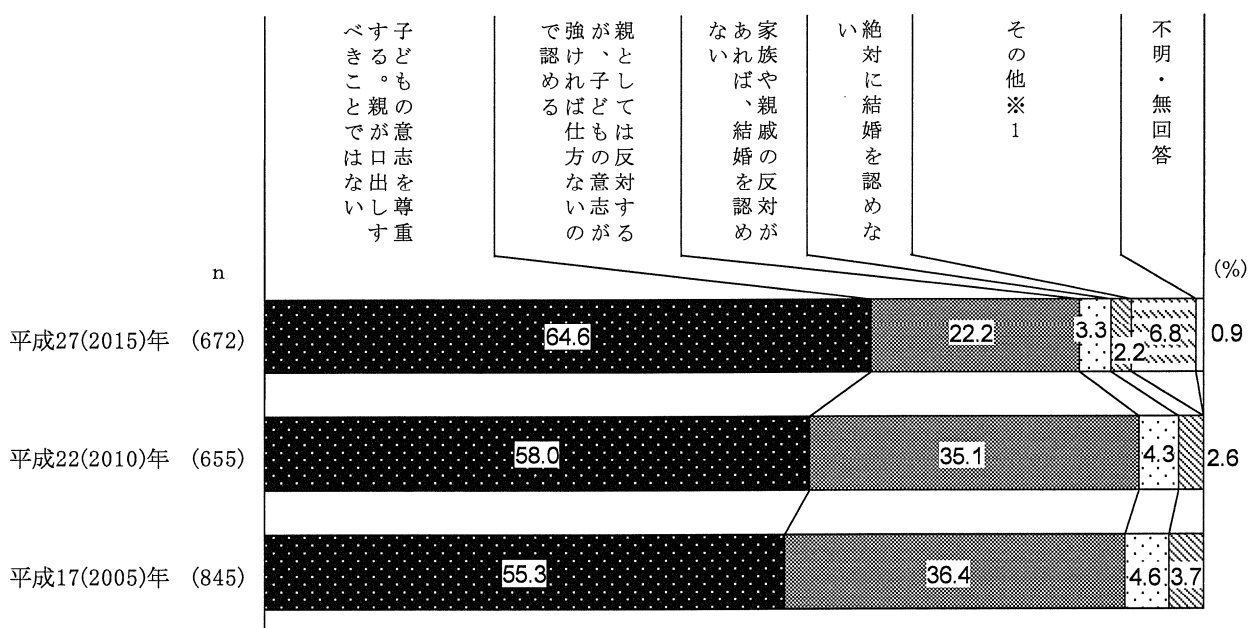


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(4) 子どもの結婚相手が同和関係者とわかった場合の対応

(問10で「1. 知っている」とお答えの方に)

問13 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和関係者であるとわかった場合、あなたは
どうしますか。子どもがいると仮定してお答えください。(〇は1つ)



基数は、問10で「同和地区や同和问题などのことを知っている」を選択した回答者
平成17(2005)年と平成22(2010)年では、子どもがいる方(未婚・既婚にかかわらず)へのみ聴取
※1:平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 自分の子どもが結婚しようとする相手が、同和関係者であるとわかった際の対応については、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が64.6%で最も多く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ仕方ないので認める」(22.2%)と続いている。

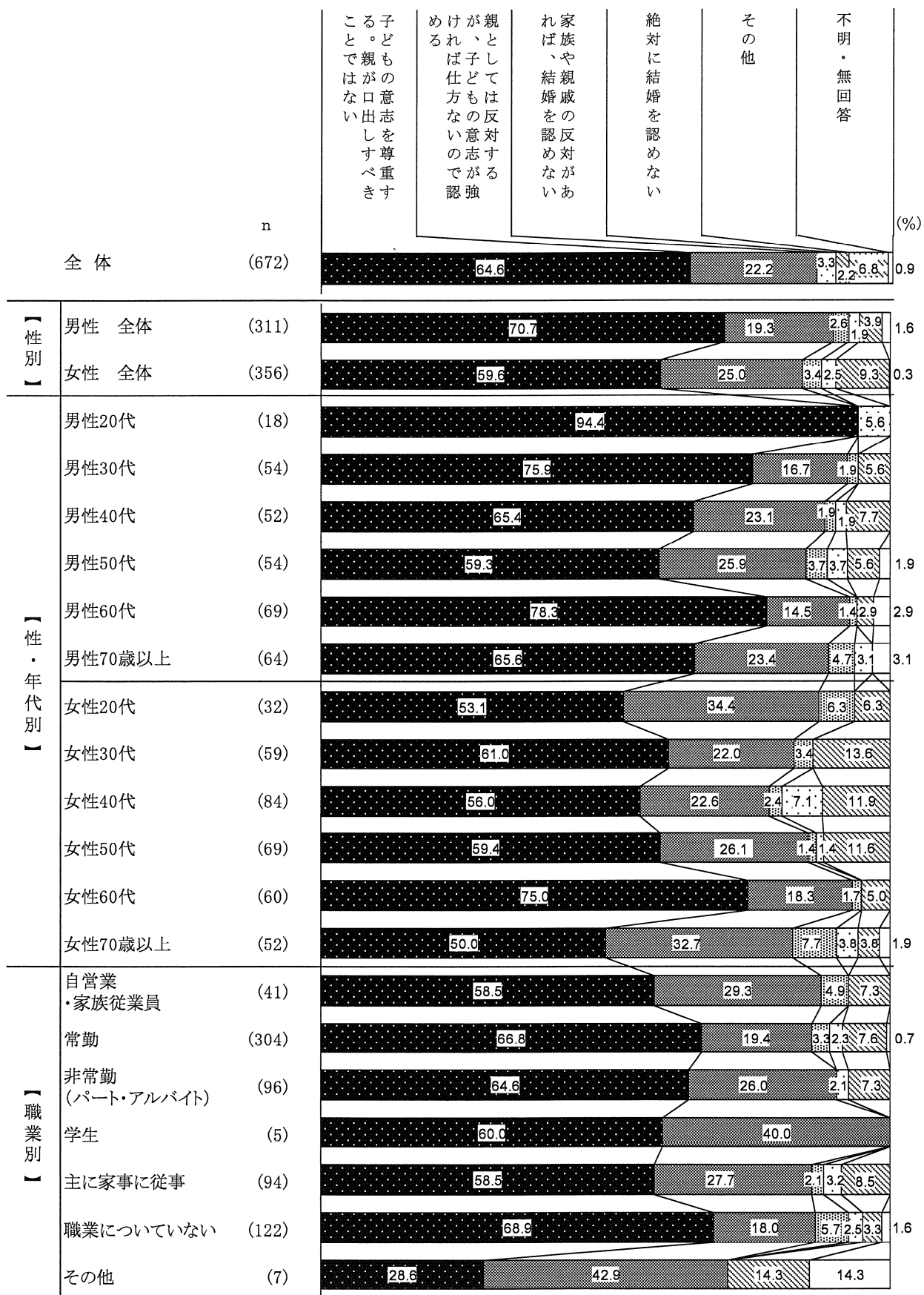
過去の調査と比較すると、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が、55.3%から58.0%、64.6%へと増加している。

性別 「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は、女性(59.6%)より男性(70.7%)のほうが、10ポイント以上多くなっている。

性・年代別 女性20代と70歳以上では、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が53.1%と50.0%にとどまり、他の性・年代と比べて少なくなっている。

職業別 職業についていない人と常勤では「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が、それぞれ68.9%と66.8%で他の職業よりも多くなっている。

図 6-4 子どもの結婚相手が同和関係者とわかった場合の対応（性別、性・年代別、職業別）

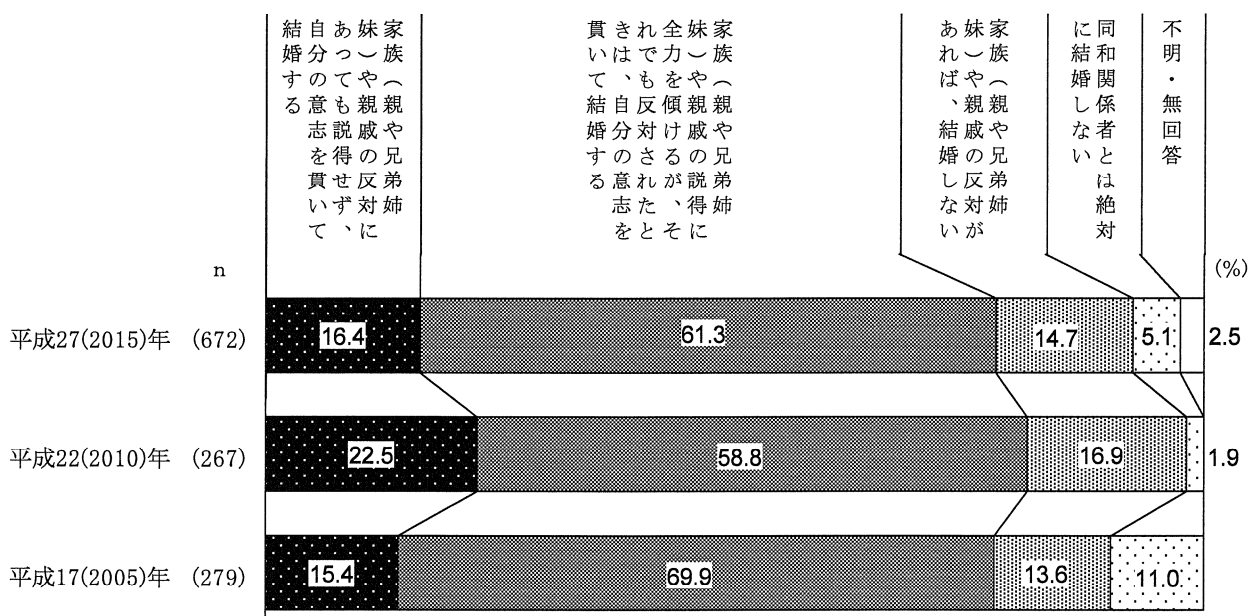


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(5) 自分自身の結婚相手が同和関係者とわかった場合の対応

(問10で「1. 知っている」とお答えの方に)

問14 仮に、あなたが同和関係者と結婚しようとしたとき、家族(親や兄弟姉妹)や親戚の人から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。(〇は1つ)



基数は、問10で「同和地区や同和问题などのことを知っている」を選択した回答者
平成17(2005)年と平成22(2010)年では、未婚の方へのみ聴取

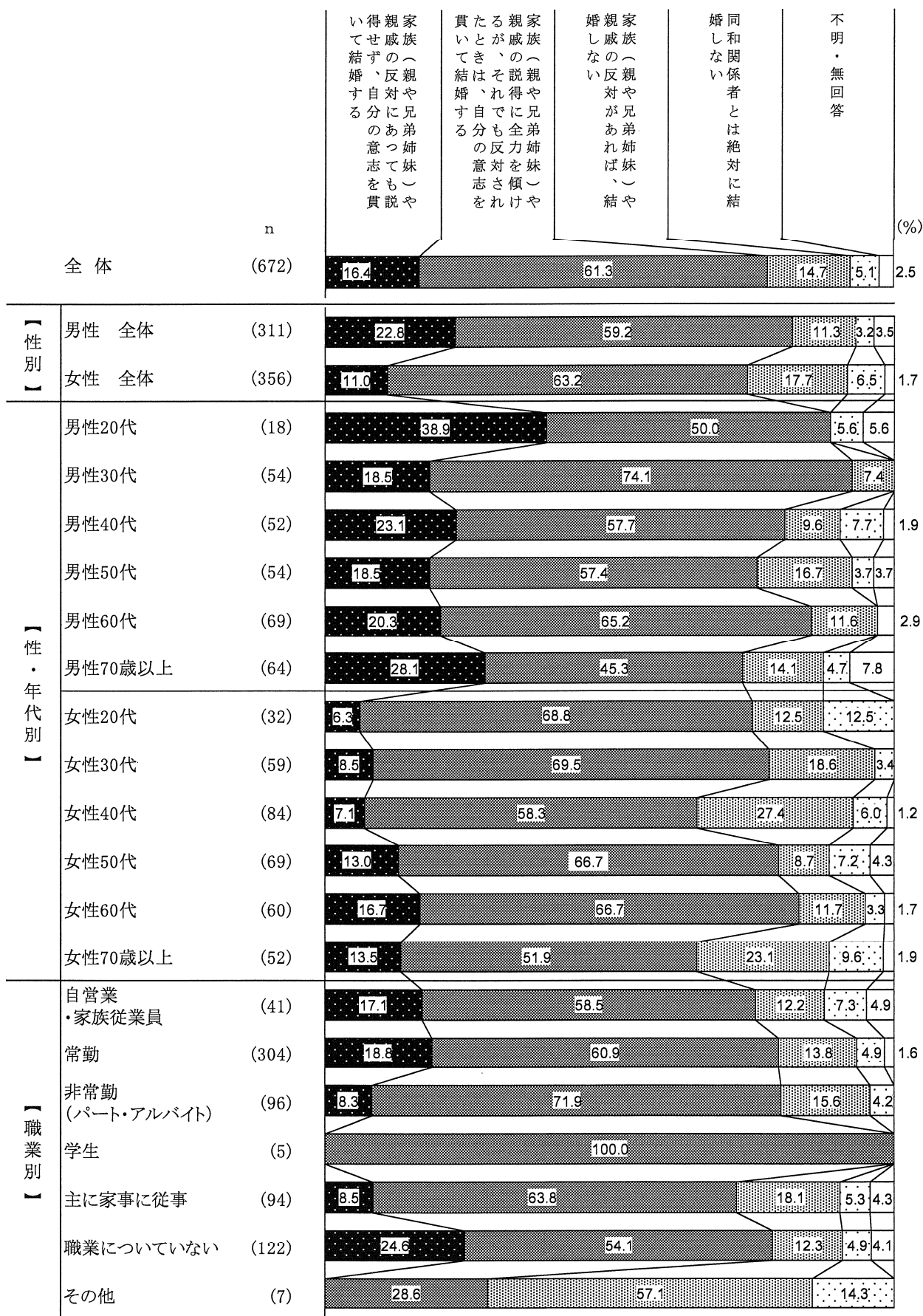
全体 過去の調査と比較すると、「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の反対にあっても説得せず、自分の意志を貫いて結婚する」が前回平成(2010)年の22.5%から16.4%へ減り、「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の説得に全力を傾けるが、それでも反対されたときは、自分の意志を貫いて結婚する」が58.8%から61.3%に、「同和関係者とは絶対に結婚しない」が1.9%から5.1%に増加している。

性別 女性は「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の説得に全力を傾けるが、それでも反対されたときは、自分の意志を貫いて結婚する」が63.2%と、男性の59.2%と比べて多く、男性は「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の反対にあっても説得せず、自分の意志を貫いて結婚する」が22.8%と、女性の11.0%と比べて10ポイント以上多い。また、女性は「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の反対があれば、結婚しない」が17.7%と、男性の11.3%と比べて多く、「同和関係者とは絶対に結婚しない」も男性の3.2%に対して6.5%と、倍以上多くなっている。

性・年代別 男女ともに30代は、「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の説得に全力を傾けるが、それでも反対されたときは、自分の意志を貫いて結婚する」が、男性は74.1%、女性は69.5%と他の年代と比べて最も多くなっている。

職業別 非常勤(パート・アルバイト)は「家族(親や兄弟姉妹)や親戚の説得に全力を傾けるが、それでも反対されたときは、自分の意志を貫いて結婚する」が71.9%と、他の職業より多くなっている。

図 6-5 自分自身の結婚相手が同和関係者とわかった場合の対応（性別、性・年代別、職業別）

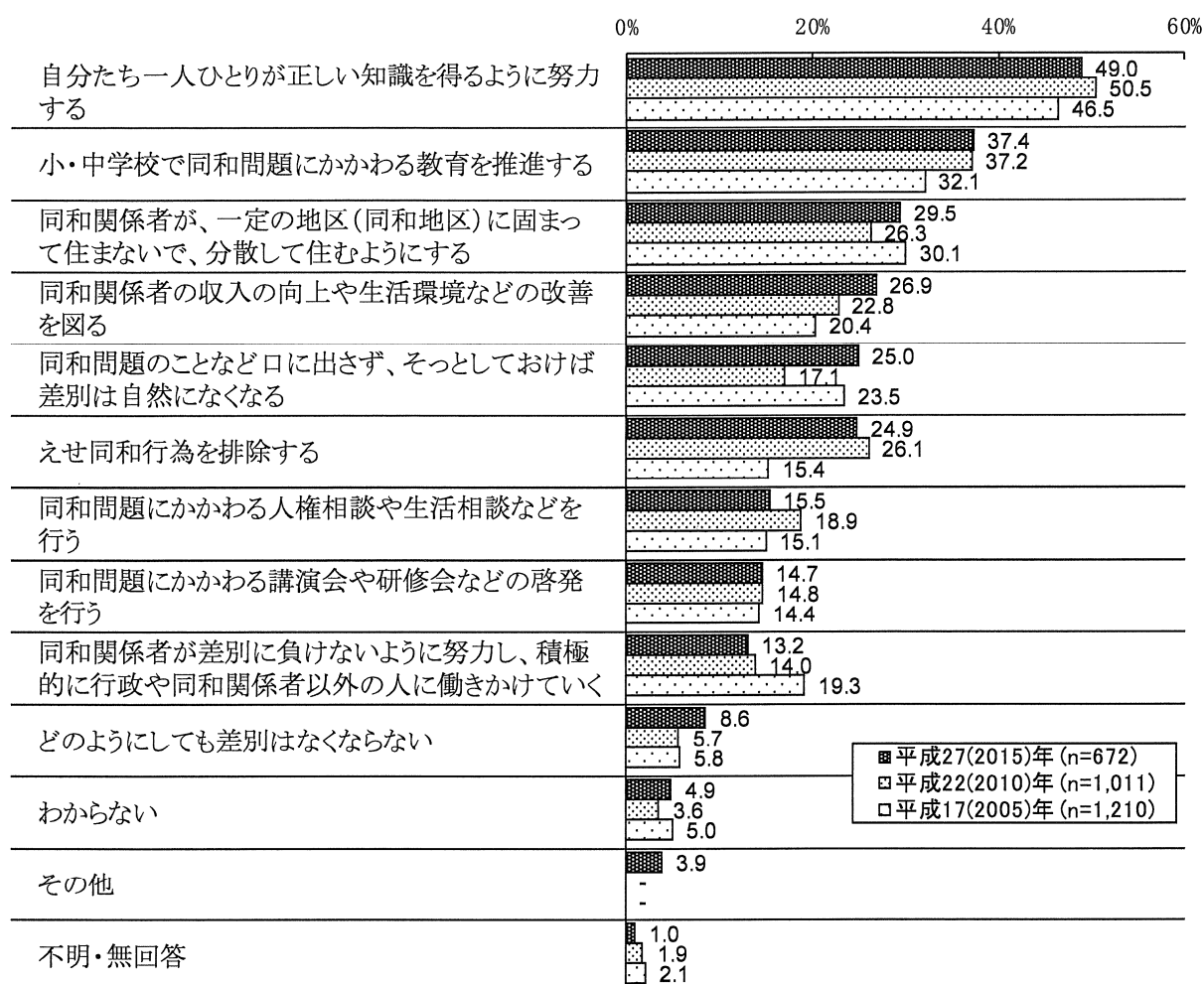


※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

(6) 同和問題の解決に必要なこと

(問10で「1. 知っている」とお答えの方に)

問15 同和問題の解決のために、どのようなことが必要だと思いますか。(番号は3つまで)



基数は、問10で「同和地区や同和問題などのことを知っている」を選択した回答者
「-」:平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 同和問題の解決のために必要だと思うことについては、「自分たち一人ひとりが正しい知識を得るように努力する」が49.0%で最も多く、次いで「小・中学校で同和問題にかかわる教育を推進する」(37.4%)、「同和関係者が、一定の地区(同和地区)に固まって住まないで、分散して住むようにする」(29.5%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」が、前回平成22(2010)年の17.1%の7位から25.0%の5位に上昇した。一方、「えせ同和行為を排除する」は、前回26.1%の4位から24.9%の6位に下降した。

性別 「自分たち一人ひとりが正しい知識を得るように努力する」が男性の45.0%に対して、女性は52.8%と7.8ポイント多く、同様に「同和関係者が、一定の地区（同和地区）に固まって住まないで、分散して住むようにする」が男性の26.0%に対して、女性は32.6%と7.6ポイント多くなっている。

性・年代別 男女ともに20代は「小・中学校で同和問題にかかわる教育を推進する」が61.1%と50.0%となり、他の年代より目立って多くなっている。

図 6-6 同和問題の解決に必要なこと【上位4】（性別、性・年代別）

